

令和6年度

多摩・島しょ広域連携活動助成事業

実施報告書

令和7年3月

東京都市長会／東京都町村会

■ 目 次 ■

I 事業概要	1
II 実施事業一覧	3
III 実施事業内容	
1 子ども体験塾事業	7
2 観光振興連携活動事業	35
3 一般連携活動事業	48
資料編	
資料1 多摩・島しょ広域連携活動助成金交付要綱	72
資料2 市町村共同事業助成事業選定委員会設置及び運営要綱	78
資料3 市町村共同事業助成事業選定委員会 委員名簿	80
資料4 市町村共同事業助成金審査会設置及び運営要綱	81
資料5 市町村共同事業助成金審査会 委員名簿	83

I 事業概要

1 多摩・島しょ広域連携活動助成事業について

本事業は、多摩・島しょ地域の市町村が立ち上げる新たな連携活動の支援、あるいは既存の連携活動の活性化、市町村職員の交流及び人材育成、ひいては多摩・島しょの魅力を高めることを目的に、二以上の多摩・島しょ地域の市町村で組織する協議会、研究会、連絡会等へ助成金を交付する事業である。

<p>助成対象事業</p>	<p>連携組織内の多摩・島しょ地域の市町村が企画・立案し、独自性が表れたもの、かつ連携組織が主体的に実施する多摩・島しょの魅力を高めるもので、東京都市長会会長が必要と認める事業とする。</p> <p>(施設整備等に係る経費、備品購入費及び連携組織の構成団体の職員人件費、また、他の市町村共同事業助成金を充当している事業は助成対象外とする。)</p> <p>【事業区分】</p> <p>①子ども体験塾〔助成年限：制限なし〕 多摩・島しょの魅力を高める事業であって、子ども（18歳以下）を対象とした高度で大規模な感動体験を提供する事業</p> <p>②観光振興連携活動〔助成年限：5年〕 多摩・島しょの魅力を高める事業であって、多摩・島しょ地域の観光振興に資する事業</p> <p>③一般連携活動〔助成年限：5年〕 多摩・島しょの魅力を高める事業のうち、子ども体験塾・観光振興連携活動に該当する事業を除く事業</p>
<p>助成額</p>	<p>①子ども体験塾〔助成率8/10〕 一連携組織につき、連携する多摩・島しょ地域の市町村数や人口により年間1,200万円以内</p> <p>②観光振興連携活動〔助成率10/10〕 一連携組織につき、事業計画期間における総額として、上限500万円×事業計画年数（最大2,500万円） ※総額内で各年度申請額を任意に按分することが可能。ただし、各年度の申請上限額は1,000万円</p> <p>③一般連携活動 1～3年目まで〔助成率10/10〕 一連携組織につき、年間500万円以内 4～5年目まで〔助成率1/2〕 一連携組織につき、年間250万円以内</p>

2 連携組織数及び実施事業数

連携組織数：40 事業数：41件

(内訳)

事業区分	連携組織数	事業数
子ども体験塾	18	19件
観光振興連携活動	8	8件
一般連携活動	14	14件

3 市町村共同事業助成事業選定委員会

観光振興連携活動区分に該当する事業の申請に当たっては、市長村共同事業助成事業選定委員会の審査を受け、選定されたものに限ることとなり、次のとおり実施した。

(1) 実施日時 令和5年12月4日(月)

(2) 実施結果

選定事業数	8件
不選定事業数	0件

4 市町村共同事業助成金審査会

本助成金の交付にあたっては、市町村共同事業助成金審査会に付したうえで、その可否を決定することとなり、次のとおり実施した。

(1) 実施日時 令和6年4月8日(月)

(2) 実施結果

事業区分	適正事業数
子ども体験塾	19件
観光振興連携活動	8件
一般連携活動	14件

II 実施事業一覧

事業区分	連携組織名称	事業名称	構成市町村等	掲載ページ
子ども体験塾	アイススケート体験事業実行委員会	アイススケート体験事業	東大和市、立川市、昭島市、武蔵村山市	7
	多摩・島しょ子ども体験塾島しょブロック実行委員会	感動体験事業	大島町、利島村、新島村(式根島)、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村(父島、母島)	8
	西多摩地区伝統・文化等体験事業委員会	郷土に根差す伝統・文化等理解事業	青梅市、瑞穂町	10
	東大和市・東村山市 広島派遣事業実行委員会	東大和市・東村山市 地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業	東大和市、東村山市	11
	青梅・羽村子ども体験塾実行委員会	青梅・羽村ピースメッセンジャー事業	青梅市、羽村市	13
	子ども国際交流音楽祭実行委員会	子ども国際交流音楽祭	羽村市、昭島市、檜原村、奥多摩町、ウィーン国際音楽文化協会	15
	檜原村・利島村子ども体験塾実行委員会	檜原村・利島村子ども体験塾	檜原村、利島村	16
	令和6年度多摩・島しょ子ども体験塾日野市・八王子市共同事業実行委員会	たにぞうファミリーコンサート トイ♪トイ オーケストラ!	日野市、八王子市、(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団	18
	奥多摩町・神津島村子ども体験塾実行委員会	子ども体験塾・神津島洋上セミナー	奥多摩町、神津島村	21
	子ども雪国体験事業実行委員会	子ども雪国体験事業	昭島市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町、長野県栄村	22
	秋川流域(あきる野市・日の出町・檜原村)子ども体験塾実行委員会	秋流子ども体験塾 小中学生駅伝大会	あきる野市、日の出町、檜原村	23
	多摩市・稲城市子どもスポーツ体験塾実行委員会	～プロから学ぼう～ 子どもサッカー体験事業	稲城市、多摩市、長野県富士見町	25

事業区分	連携組織名称	事業名称	構成市町村等	
子ども体験塾	小金井・三宅島連携推進協議会	青少年自然・文化体験交流事業 in 三宅	小金井市、三宅村	27
	5市共同事業実行委員会	5市共同事業「子ども体験塾」子ども宇宙フェスティバル・ココブンジプラザ鉄道模型広場	武蔵野市、三鷹市、小金井市、国分寺市、国立市	28
	多摩北部広域子ども体験塾実行委員会	宇宙をみる！知る！学ぶ！ ～最先端の宇宙科学と星を体験しよう！～	小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市、多摩六都科学館	29
	大島・子ども体験塾実行委員会	大島・子ども体験塾	羽村市、あきる野市	30
	青梅市・羽村市・瑞穂町子ども体験塾実行委員会	子ども体験塾「YouTuber って何してる？」	青梅市、羽村市、瑞穂町	31
	町田市・多摩市・稲城市子ども体験塾実行委員会	町田市・多摩市・稲城市子ども体験塾2024	町田市、多摩市、稲城市	32

事業区分	連携組織名称	事業名称	構成市町村等	掲載ページ
観光振興連携活動	多摩地域インバウンドガイド連絡協議会	多摩地域インバウンド受け入れ拡大のためのガイド人材養成・育成事業	立川市、国立市、国分寺市、一般社団法人立川観光コンベンション協会、特定非営利活動法人国立市観光まちづくり協会、一般社団法人こくぶんじ観光まちづくり協会	35
	多摩北部都市広域行政圏協議会	多摩六都の魅力発掘・発信プロジェクト	小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市	37
	福生・昭島発！地酒と深層地下水の魅力を広める協議会	福生・昭島発！地酒と深層地下水の魅力を広める事業	福生市、昭島市、福生市観光協会、一般社団法人昭島観光まちづくり協会、グッドライフ多摩	38
	福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト協議会	福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト事業	福生市、羽村市、瑞穂町、福生市観光協会、一般社団法人羽村市観光協会、瑞穂町観光協会	40
	シェアサイクル観光連携推進協議会	シェアサイクル観光連携推進事業	福生市、立川市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市、OpenStreet 株式会社	42
	北多摩縄文連合	北多摩縄文の里	調布市、東村山市、国分寺市、国立市、西東京市	43
	東京アドベンチャープロモーション協議会	東京アドベンチャープロモーション事業	青梅市、奥多摩町、青梅市観光協会、奥多摩観光協会、御岳山観光協会、青梅商工会議所、東日本旅客鉄道八王子支社	45
	多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト実行委員会	多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト	多摩市、稲城市、八王子市、日野市、町田市、多摩大学総合研究所、京王観光株式会社	47

事業区分	連携組織名称	事業名称	構成市町村等	掲載ページ
一般連携活動	A I 技術の活用に関する広域連携検討会	A I 技術を活用した業務効率化に関する課題研究	武蔵野市、小金井市	48
	多摩ニュータウン沿線まちづくり魅力発信プロジェクト実行委員会	多摩ニュータウンに関する情報発信事業	八王子市、多摩市、稲城市、京王電鉄株式会社、独立行政法人都市再生機構	49
	空き家等対策連携協議会	空き家等対策連携広報啓発事業	調布市、三鷹市、狛江市、民間事業者、大学	50
	日野市・三鷹市生成A I 利活用推進研究会	日野市・三鷹市生成A I 利活用推進事業	日野市、三鷹市	51
	日野市・多摩市・稲城市 DX 人材育成推進研究会	日野市・多摩市・稲城市 DX 人材育成推進事業	日野市、多摩市、稲城市	52
	日野市・多摩市 多様な学びの場構築広域連携協議会	多様な学びの場構築広域連携事業	日野市、多摩市	54
	気候変動対策自治体ネットワーク	気候変動対策広域化事業	日野市、府中市、多摩市、昭島市	56
	公共交通経路検索サービス導入による人流活性化事業	公共交通経路検索サービスの導入による人流活性化事業	多摩市、調布市、京王電鉄株式会社	58
	島しょ町村における事務事業の共同化等検討会	島しょ町村における事務事業の共同化	八丈町、利島村、新島村、三宅村、御蔵島村、小笠原村	60
	多摩川流域連携会議	広域連携による多摩川流域自治体の魅力発信事業	調布市、八王子市、府中市、町田市、日野市、狛江市、多摩市、稲城市	61
	多摩地域セクシュアル・マイノリティ支援ネットワーク	若年層セクシュアル・マイノリティ支援事業	国分寺市、日野市、国立市、府中市、清瀬市、武蔵村山市、多摩市、小金井市、東村山市、小平市、町田市	62
	産学官民 CO-CREATION	産学官民連携によるイノベーション創出モデル事業	八王子市、日野市、多摩大学総合研究所、株式会社ディールランド	64
	多摩マッチングプロジェクト実行委員会	多摩マッチングプロジェクト～多摩にはステキな未来がある～	狛江市、府中市、国立市、稲城市	66
生きづらさを抱えた女性支援ネットワーク	生きづらさをかかえた女性支援事業 「ひきこもり女子会・ママ会」	武蔵野市、日野市、国立市、東大和市、清瀬市、文京区、豊島区	68	

Ⅲ 実施事業内容

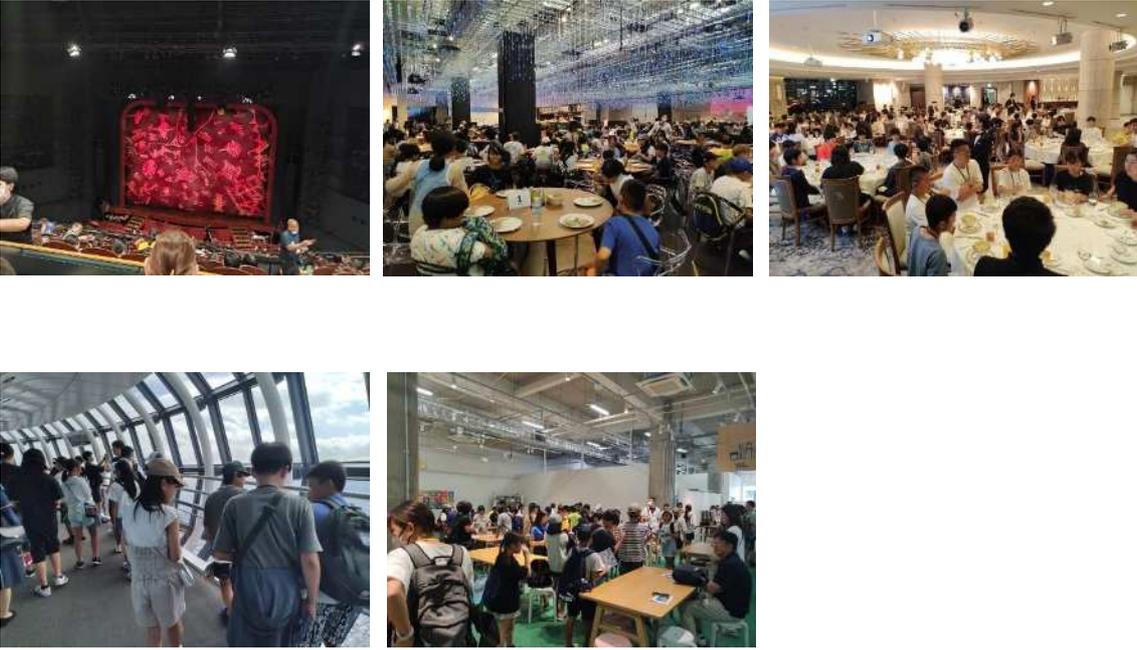
1 子ども体験塾事業

アイススケート体験事業実行委員会	
構成市町村等：東大和市、立川市、昭島市、武蔵村山市	
アイススケート体験事業	
目 的	<p>子ども達にアイススケートを体験する機会を提供することにより、子どもたちのスポーツへの関心及びやる気を高めること、スポーツ選手から直接指導を受けることにより、日頃体験できない感動を提供することを目的とする。</p> <p>また、地域の貴重な資源である東大和スケートセンターを活用し、市内企業との連携による地域の活性化を図る。</p>
主な内容	<p>小学生を対象としたアイススケート教室及びアイスホッケー教室を開催した。アイススケート教室は、アイススケート初心者を対象とし、アイスホッケー教室ではアイススケート経験者を対象とし、アイスホッケーの防具を装着するなど本格的にアイスホッケーを体験できる内容とした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>
事業期間	令和5年度から（2年目）
実施日・期間	令和6年8月24日（土）及び令和6年8月25日（日）
実施場所	東大和スケートセンター
参加者数	235人
事業評価	<p>令和6年度事業目標</p> <p>参加する児童が、スケート靴を履く基本的なことから、足踏み、片足滑走などを楽しく学び、アイススケートを身近に感じるスポーツとなることを目標とする。</p> <p>また、事業実施後に参加した児童へアンケートを実施し、「他のスポーツにも取り組んでみたい」又は「またスケートセンターに行きたい」と回答した参加者の割合が90%以上とすることを目標とする。</p>
	<p>目標に対する実施結果</p> <p>事業実施後に参加した児童へアンケートを実施した結果、「今後アイススケート（アイスホッケー）をしてみたい」と回答した児童の割合は90%以上となった。</p>
	<p>達成度評価結果（自己評価）</p> <p style="text-align: center;">90 %</p> <p>（理由） 今年度も多数の参加申込があり、参加した児童からも「楽しかった」の声を聞くことができ、概ね成功したといえるが、以下のとおり次年度に向けた課題もあるため。</p>
	<p>令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか</p> <p>参加者がより満足できるよう、アンケートによる参加者からの意見等をもとにした事業改善に努めていく。具体的には、アンケート内の自由記述欄において運営面の改善を求められた事項については今年度見直しを図っていく。</p> <p>また、アンケートの集計内容については、委託事業者を始め関係者に展開し、改善点などの共有を図っていく。</p>

多摩・島しょ子ども体験塾島しょブロック実行委員会

構成市町村等：大島町、利島村、新島村（式根島）、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村（父島、母島）

感動体験事業

<p>目 的</p>	<p>島しょ部の子ども達は、海や山など豊かな自然に囲まれた生育環境ではあるが、都会にしかないミュージアム施設や観劇等に訪れる機会が少ない。都会の文化や最新情報に接する機会は、インターネットだけでは限界がある。島しょ部の子ども達が一堂に会し、内地の文化や芸術に直接触れる機会を設け、かつ団体行動を通じて社会性・協調性を育むとともに、島しょ部の未来を担う子ども達の人材育成に資する事を目的としている。</p>	
<p>主な内容</p>	<p>大島から小笠原まで9町村 11 島に生活する小学4～6年生を対象とし、合同で都内での博物館見学、ミュージカルの観劇、ホテルでの食事マナー講座体験など、島しょでは体験することのできない社会見学、体験により見分を広げる。</p> 	
<p>事業期間</p>	<p>令和6年度から実施（3年目）</p>	
<p>実施日・期間</p>	<p>令和6年8月21日～令和6年8月24日</p>	
<p>実施場所</p>	<p>上野国立科学博物館、劇団四季、スモールワールドズ、東京スカイツリー、都内レストラン・ホテル</p>	
<p>参加者数</p>	<p>156名(児童136名、引率者20名) ※青ヶ島村は参加希望児童がいなかったため不参加となったが、計画段階での協議には参加しており、事業実施前後の事務連絡等のやりとりについても引き続き参加した。</p>	
<p>事業評価</p>	<p>令和6年度 事業目標</p>	<p>島しょ部の子ども達が今までに経験をしたことがないような内地の文化や芸術に触れる機会を作り、新たな視点や理解を得て、他の島しょ部の子ども達と共に団体行動を行うことで集団行動の経験と社会性、協調性を育む事、島しょ部の未来を見据える事ができる人材の育成に資する事を目標とした。</p>

目標に対する 実施結果	<p>島しょ部では経験する事ができない、劇団四季の観劇や上野国立科学博物館での見学などを通じて、文化や芸術に触れる事ができた。</p> <p>また、スモールワールドでは他の島と合同でSDGsのスタンプラリーを行う等、集団行動によって社会性、協調性を育むといった部分は達成できたと考える。</p> <p>島しょ部の未来を見据える事ができる人材の育成という部分では、改善の余地があり、訪れる場所を新たに選定する必要があると思われる。</p> <p>アンケートでは劇団四季が好評で、児童のみならず、保護者からも好評であった。</p> <p>また、今回から夏の気温上昇等も鑑みて、昼食を屋外又はバス内での弁当から屋内のレストランに変更したが、これにより熱中症のリスクを回避でき、参加者全体から高評価であった。</p>	
達成度 評価結果 (自己評価)	70 %	<p>(理由)</p> <p>前回からの問題点を改善していき、順当に事業をブラッシュアップすることが出来たと考えている。ただし、今回は幹事島の受け渡しが遅かった為、準備期間が短く、あまり見学場所や体験に向かうエリアには手を付けられなかった。</p> <p>島しょの子ども達にとって更なる感動体験が得られる事業になるように邁進していきたい。</p>
令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか	<p>アンケートで一部あまり評価がよくなかった見学場所があり、それらを別の場所に変更することや、今回突然の大雨により雨具の部分で対応に苦慮した箇所があったため、それらを改善していければと考えている。</p>	

西多摩地区伝統・文化等体験事業委員会

構成市町村等：青梅市、瑞穂町

郷土に根差す伝統・文化等理解事業

目的	学校教育では体験できない西多摩地区の伝統・文化の製作体験を行うことにより、学区域を超えて西多摩地域の児童・生徒がともに普段活動している郷土について深く学び、地域への愛着や地域を愛する心を涵養する。		
主な内容	<p>1 多摩だるま絵付け体験講座の実施 多摩だるまについて、職人である制作者から説明・講義・師範により理解を深めた後、多摩だるまの顔の部分の絵付け体験（制作）をする。この体験を通して、普段見ていた伝統・文化の制作物の奥の深さを知るとともに、地域の伝統・文化を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>2 工房見学の実施 体験後には、工房見学を実施した。工房見学では、児童から作り方ややりがいなど多くの質問が児童から挙げられていた。また、この体験を契機に自ら、だるまづくりに取り組む児童もいた。</p>		
事業期間	平成30年度から実施（7年目）		
実施日・期間	令和6年6月15日		
実施場所	瑞穂町役場、だるま制作工房		
参加者数	88人		
事業評価	令和6年度事業目標	学校教育では体験できない多摩だるま製作活動を時間をかけて実施し、域内の小学校3年生から小学校6年生の児童の1.5%（100名）が製作活動に参加する。 来場した児童に対するアンケートで、「体験してよかった」という調査項目で肯定的な意見を95%以上とする。	
	目標に対する実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の参加者は、88名であった。 ・参加者アンケートで98%が「体験してよかった」と回答した。 	
	達成度評価結果（自己評価）	80%	（理由） 学校の予定等と重なり、児童の参加者が目標人数に満たなかったが、参加者の満足度が十分得られたため。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	アンケートで体験できることが楽しかったという意見とともに、子どもとともに保護者も参加できてよかったという意見が多かったため、令和7年度も、子どもの体験とともに保護者への体験を促していく。	



東大和市・東村山市 広島派遣事業実行委員会

構成市町村等：東大和市、東村山市

東大和市・東村山市 地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業

目的	身近な地域であった戦争の歴史を学習することや、原爆が落とされた広島市を訪問することといった様々な側面から戦争について学ぶことで、これからの未来を担う子どもたちが平和について考え、戦争を起こさないために何ができるかといったことを考えることができる機会を提供する。	
主な内容	<p>1 地域の戦争・平和学習会（2市合同で実施）：令和6年7月26日（金）</p> <p>（1）東村山市 被爆石モニュメント及び東村山ふるさと歴史館の見学、学習</p> <p>（2）東大和市 戦後70年東大和市戦争体験映像記録「沈黙の証言者」の視聴</p> <p>（3）東大和市 戦災建造物「旧日立航空機株式会社変電所」の見学</p> <p>（4）参加者によるグループワーク</p> <p>2 広島派遣：令和6年8月4日（日）～6日（火）実施</p> <p>【1日目（8/4）】被爆者体験講話、グループワーク</p> <p>【2日目（8/5）】平和学習（袋町小学校平和資料館、広島平和記念資料館等の見学）、ピースクリエイターになろう</p> <p>【3日目（8/6）】平和記念式典への参列、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の見学</p> <p>3 報告会</p> <p>【東大和市】平和市民のつどい：令和6年8月17日（土）実施</p> <p>【東村山市】平和のつどい：令和6年8月25日（日）実施</p> <p>4 報告書の作成</p>	
事業期間	平成27年度から実施（10年目）	
実施日・期間	令和6年5月～令和6年12月（うち、広島派遣は8月4日（日）から6日（火）まで）	
実施場所	東大和市、東村山市、広島市	
参加者数	19人	
事業評価	令和6年度事業目標	<p>①身近な自分たちのまちで起こった戦争の歴史について見識を深めること、②原爆が投下された広島市の惨状を学ぶこと、③平和に対する自分の考えの芽を育むこと、④事業を通じて参加者同士の親睦を深めること、⑤事業を通して学んだこと、考えたことを分かりやすく伝えられること、⑥「自分はこれから平和について何ができるか」等未来に向けて考えを示せること、⑦事業の満足度等を数値化すること の7点</p>
	目標に対する実施結果	<p>予定していた全行程を実施することができ、十分な実施結果が得られた。地域の戦争・平和学習については、東村山市と東大和市で起こった戦争の話や戦災建造物の見学等を実施することで、身近な自分たちのまちで起こった戦争の歴史について見識を深めることができた。しかし、熱中症の症状が出た参加者がいたため、今回は行程を見直す等対策が必要である。</p> <p>広島派遣については、昨年度の反省点として、熱中症の症状の参加者がいたため行程表を見直したところ、広島派遣時に体調を崩した参加者は出なかった。参加者に特に好評であったのが、被爆者体験講話であった。今年度は体験者本人から話を聞いたことで、多くの参加者が戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶことができた。</p> <p>報告会については、事業を通して学んだこと、考えたことを班ごとにまとめて発表した。また、「自分はこれから平和について何ができるか」について参加者1人1人がそれぞれの考えを発表することができた。事業全体を通して、和気あいあいとした雰囲気があり、参加者同士も親睦を深めることができた。</p> <p>事後アンケートに、満足度を回答する質問を設けたが、「満足している」と回答した参加者が19人中18人、「少し満足している」と回答した参加者が19人中1人であった。</p>



	達成度 評価結果 (自己評価)	100 %	(理由) 予定していた全行程の平和学習を実施することができた。また、グループワーク等を通じて親睦を深めながら、全員で平和について考え、多くの方の前で報告を行うことができた。
	令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか	事業に参加した小・中学生にアンケートを実施し、高い満足度を得られた。令和7年度においても参加者が満足し、全行程を実施できるよう、熱中症対策を講じた上で、事業運営を行う。	

青梅・羽村子ども体験塾実行委員会

構成市町村等：青梅市、羽村市

青梅・羽村ピースメッセンジャー事業

<p>目 的</p>	<p>世界平和は人類共通の願いであるが、中学生などの若い世代が戦争について学ぶ機会は、机上での学習が中心であり、戦争を体験した人が減っていくにつれて、直接話を聞き、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える機会は減少している。</p> <p>現地の中学生や原爆体験者を交えた対話や、平和記念資料館・慰霊碑等の見学、似島の訪問など現地での経験を通し、戦争の悲惨さや平和の大切さを自ら発信できる人材「ピースメッセンジャー」を育成することを目的として実施した。</p>	
<p>主な内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 事前研修 3回（6月28日、7月13日、7月26日） <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式での学習 ・グループワーク 2 出発式 7月30日 3 広島派遣 8月1日～3日 <ul style="list-style-type: none"> ・原爆体験者の体験語り等 ・広島の中学生との交流会 4 事後研修 2回（8月7日、8月15日） <ul style="list-style-type: none"> ・報告会準備 5 派遣報告会 8月17日 6 報告書 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 平和を願う作文の提出（8月17日まで） ・報告書の発行（2月） 	
<p>事業期間</p>	<p>平成27年度から実施（10年目）</p>	
<p>実施日・期間</p>	<p>令和6年6月～令和7年2月</p>	
<p>実施場所</p>	<p>青梅市、羽村市、旧日立航空機株式会社変電所（東大和市）、広島市内</p>	
<p>参加者数</p>	<p>中学生 20人、大学生リーダー 5人、指導員 3人、協力者 1人、職員 4人</p>	
<p>事業評価</p>	<p>令和6年度 事業目標</p>	<p>本事業を通して、戦争の悲惨さと平和の大切さについて考え、自ら発信できる人材を育成する。参加した中学生が得た感動体験や、知識等の発表だけに留まらず、今後、自分たちが主体的に考え、『平和への想い』の発信に繋げていくことができるよう、報告書を作成し、広く周知を図る。また、目標の達成に向けて事業のブラッシュアップを図り、内容の充実に取り組む。</p> <p>新たなピースメッセンジャーの育成に加え、過去の参加団員をリーダーとして活用するなど、継続した取組となるよう努める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ピースメッセンジャーの育成 <ol style="list-style-type: none"> ①参加団員（中学生）20人（きめ細かなサポートのため、R5から人数を縮小） ②過去の参加団員のより一層の活用 2 事業内容の評価 <ol style="list-style-type: none"> ①ピースメッセンジャーが本事業を通じて考えた『平和への想い』などの作文の作成 ②事業経過を取りまとめた報告書（レポート）の発行（400部）
	<p>目標に対する 実施結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ピースメッセンジャーの育成 <ol style="list-style-type: none"> ①参加団員（中学生）20名 ②過去の参加団員の活用 3名（大学生リーダー） 2 事業内容の評価 <ol style="list-style-type: none"> ①ピースメッセンジャーが本事業を通じて考えた『平和への想い』などの作文作成の指導 ②事業経過を取りまとめた報告書（レポート）の発行（400部）

	<p>達成度 評価結果 (自己評価)</p>	<p>90 %</p>	<p>(理由) 今年は団員の募集を学校推薦から公募へ変更したことにより、熱意を持って取り組む参加団員が多く、意見交換や原爆体験者への質問も活発に行われた。 原爆が投下された広島へ派遣し、被爆電車への乗車、似島への訪問など、実際に見て、直接話を聞き対話するなど、様々な体験を通じて、戦争の悲惨さや平和の大切さを考える機会を提供することができた。 昨年まで平和記念式典に参加していたが、早朝であることや酷暑により体調面で不安が大きいため、本年は日程をずらした。これにより、広島市内での活動時の混雑回避、現地における体験の充実など一定の成果が得られた。 また、過去の団員3名が昨年から引き続き大学生リーダーとして参加し、参加団員へのサポートを行った。これにより効果的な事業実施に繋がるとともに、ピースメッセンジャーの育成サイクルの確立を図ることで、継続性を持った事業が実施できた。</p>
	<p>令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか</p>		<p>令和6年に被団協がノーベル平和賞を受賞したことに加え、令和7年には戦後80年の節目を迎えることから、平和学習の大きな契機となると考える。 引き続き、過去の参加団員をリーダーとして活用し、継続した事業となるように努めていく。</p>

子ども国際交流音楽祭実行委員会

構成市町村等：羽村市、昭島市、檜原村、奥多摩町、ウィーン国際音楽文化協会

子ども国際交流音楽祭

目 的	音楽の都ウィーンから招聘した一流の音楽家との交流を通じ、音楽の授業では味わえない貴重な体験をすることで、将来を担う子どもたちが国際感覚を身につける機会とする。また、合唱等練習の成果を披露する機会を設け、大舞台にも動じない強い心の醸成と共同作業で物事を成し遂げた達成感を与える。			
主な内容	<p>1 交流演奏会 構成市町村及び近隣の市町村の子どもたちに対し、ウィーンの著名な音楽家を中心とした世界トップクラスの奏者による一流のクラシック音楽の演奏を鑑賞する機会を提供するとともに、共演し、発表する機会を提供した。</p> <p>2 ウィーンフィルの交流演奏会及び交流指導 構成市町村の子どもたちが一流の音楽家による合唱の指導を受けるとともに、その成果を披露するため、構成市町村の各会場でウィーンのアレンジャー等との合同演奏会を実施した。</p>			
事業期間	平成 24 年度から実施（12 年目）			
実 施 日 ・ 期 間	令和 7 年 2 月 6 日～令和 7 年 2 月 11 日（合唱団の練習開始は 10 月 13 日～）			
実施場所	プリモホールゆとろぎ（羽村市生涯学習センター）大ホール			
参加者数	1, 209 人			
事業評価	令和 6 年度 事業目標	<p>構成市町村が 3 市町村から 4 市町村に増えたため、より広範囲の地域における音楽交流（練習）を通じて共同作業の経験、本番での一体感（絆）等、将来を担う子どもたちに、音楽授業では味わえないような大舞台での貴重な経験をしてもらい、音楽を通じて国際感覚を身に着ける機会とする。また、コンサートでは、練習の成果を発表、披露する機会を設け、大舞台で動じない強い心の醸成と共同で物事を成し遂げた達成感を与えたい。</p> <p>【合唱団参加人数 50 名・メインコンサート来場者数 500 名】</p>		
	目標に対する 実施結果	<p>構成市町村の子どもたちと、令和 6 年度から新たに近隣市町村の子どもたちを加えた合唱団が一流の音楽家による合唱の指導を受け、プリモホールゆとろぎ（羽村市生涯学習センター）大ホールで、その練習・研究の成果を発表した。音楽交流（練習）を通じて共同作業の経験、本番での一体感（絆）等、将来を担う子どもたちに音楽の授業では味わえないような貴重な経験をさせることができた。また、コンサートでは、練習の成果を大舞台で発表、披露することができた。</p> <p>【合唱団参加者数：50 名、メインコンサート来場者：519 名】</p>		
	達成度 評価結果 （自己評価）	90 %	<p>（理由） 今年度から構成市町村に昭島市が加わり、また近隣市町村の子どもたちも合唱団へ参加することで、交流の輪が更に広がり、より多くの子ども達に参加してもらうことができた。一流の音楽家の演奏による合唱と、その指導を受ける経験は、国際的視野を持って活動できる若者育成の基盤を築き、地域文化向上の一助となった。</p>	
	令和 6 年度事業 評価結果を 令和 7 年度 事業内容に どう反映させるか	<p>この貴重な経験を一人でも多くの子どもたちにしてもらえるように合唱団の参加者募集を構成市町村の各学校に行うとともに、コンサート開催の周知を構成市町村だけでなく西多摩地域の小中学校に行う。</p> <p>今年から、すべての来場者の入場料を無料としたことで誰もが参加しやすくなったため、引き続き入場料を無料としたい。また、小中学生がより鑑賞しやすい昼間の時間帯に演奏会を実施したい。</p>		

檜原村・利島村子ども体験塾実行委員会

構成市町村等：檜原村、利島村

檜原村・利島村子ども体験塾

目的	子ども達に様々な体験をさせ、大きな感動に触れさせることで、生きる力を身につけさせ、応用力の高い育成を図ることを目的に、小規模校同士の子どもを通し、2泊3日のサマースクール、及び2泊3日のウィンタースクールを実施する。	
主な内容	<p>1 サマースクール（2泊3日の体験事業） 利島村の山や海の自然の中で、フィールドワーク等を通じ、伊豆諸島特有の生態系や檜原村では体験できない活動を行い、各グループ（檜原村・利島村混同）のリーダーを中心に、子ども達が自主的・積極的に行動できるようなプログラムに基づき活動を実施した。</p> <p>2 ウィンタースクール（2泊3日の体験事業） 引率者1名に対して7名程度の子ども（檜原村・利島村混同）のグループを作り、日常生活では体験することのできない雪山を舞台にスキー等を体験した。またサマースクールで顔見知りとなった子ども達が再会し、スキー体験を通じ、交流の輪を深めた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
事業期間	平成24年度から実施（12年目）	
実施日・期間	【サマースクール】令和6年7月20日（土）～22日（月） 【ウィンタースクール】令和7年1月4日（土）～6日（月）	
実施場所	【サマースクール】東京都利島村 【ウィンタースクール】長野県白馬村	
参加者数	【サマースクール】32名（檜原村20名、利島村12名）引率者7名 【ウィンタースクール】42名（檜原村31名、利島村11名）引率者16名	
事業評価	令和6年度事業目標	当該事業は地域の異なる子ども達による混合グループ活動を中心とし、お互いに助け合いながら、日ごろ体験することのできない地域や気候での活動を通じて、大きな感動に触れ、生きる力を身につけさせ、応用力とを踏まえ目標参加数を次のように設定した。 目標参加者数 ①サマースクール 檜原村40名 利島村15名 計55名 ②ウィンタースクール 檜原村50名 利島村15名 計65名
	目標に対する実施結果	令和5年度における、参加者数を比較したところ、サマースクールにおいて2名減、ウィンタースクールにおいて6名増となり、目標に届かなかったものの参加者が増加傾向にある結果となった。 【参考】R5 サマースクール 34名（檜原村18名、利島村16名）、引率者11名、ウィンタースクール 36名（檜原村24名、利島村12名）、引率者16名
	達成度評価結果（自己評価）	70%

	令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか	目標人数を達成するために、学校や村広報紙等で引き続き、周知を行っていく。引率者との打合せや参加者説明会を通じて、事業の見直しに努めていきたい。
--	--	---

令和6年度多摩・島しょ子ども体験塾日野市・八王子市共同事業実行委員会

構成市町村等：日野市、八王子市、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団

たにぞうファミリーコンサート

目的	日野市・八王子市のオリジナルソング「そらに響け！ヒノソング」、「ぼくらの八王子」を中心とした「たにぞうファミリーコンサート」を実施することにより、両市の歌とダンスを地域により浸透させ、地域の活性化を図るとともに、たにぞうさんの歌を親子で歌い、踊り、触れ合うことで、情緒や親子の結びつきを育むことを目的とする。		
主な内容	<p>平成21年度事業で作成した「そらに響け！ヒノソング」、「ぼくらの八王子」を軸とし、たにぞうさんの歌やダンスで観客の親子が一緒に楽しめるコンサートを実施した。4年振りに参加募集は各回会場の100%定員の1,000名、使用する楽曲は、CDではなく、生バンド演奏で行い、地元の小・中学生を中心としたダンスチーム、ソングチームに加えて、地域のオリジナルキャラクターやパフォーマンス集団も出演した。</p> <p>たにぞうさんと生バンド演奏に地元の小・中学生、市民団体等も加わり、歌に踊りに大いに会場が盛り上がり、たくさんの笑顔が見られた。</p>		
事業期間	平成22年度から平成24年度 平成26年度から令和6年度（14年目）		
実施日・期間	令和7年1月26日(日) 第1回 13:00～14:00 第2回 16:00～17:00		
実施場所	ひの煉瓦ホール（日野市民会館）大ホール		
参加者数	当日入場者数1,913名（第1回目950名、第2回目963名）		
事業評価	令和6年度事業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 入場者数の確保 事前周知やチケット購入の円滑等を図り、総入場者数が定員の80%以上(1,600名以上)を目標とする。 2 地域に根付いたファミリーコンサートづくり 地域に根付いたコンサートとして、有料の出演者を除き、コンサートに携わる市民、市民団体参加者及び広域連携を図る自治体職員の参加者総数が50名以上で作り上げることを目標とする。 3 参加者1人当たりのコスト 職員人件費を除く1人当たりのコストについて、2,500円以下に目標を設定とする。 	
	目標に対する実施結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 入場者数は1,951名であり、総入場者数が定員の8割(1,600名以上)を大幅に上回り、目標を達成できた。 2 出演した市民団体等を含めて、コンサートに参加した市民及び自治体職員の総数は52名で、目標を達成できた(地元、市民団体(20名)、日野市や八王子市のオリジナルキャラクター(3名)、両市職員(29名))。 3 職員人件費を除く入場受付け1人当たりのコストは2,495円であり、目標を達成できた。 	
	達成度評価結果(自己評価)	95%	(理由) ステージには地元の小・中学生を中心としたダンスチーム、ソングチームに加えて、ボランティアで司会を希望する市民や市民団体等も出演し、観客席の親子が一体になって楽しんでいる様子を感じられた。このコンサートは、日野市・八王子市の両職員が協力し合いながら進めてきたものであり、職員間交流を深めることもできた。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	<p>令和7年度も、現状を維持しつつも、さらに人気やステージ参加者の満足度が高まるよう、コンサート内容等の見直しを行う。</p> <p>また、市民団体等の連携を図り、地域に根付いたコンサートができるように検討していく。準備は日野市児童館職員が中心になったことから作業手順を見直し、職員の負担を減らし参加者の満足度を高められるよう検討していく。</p>	



トイ♪トイ オーケストラ！	
目 的	<p>オーケストラを実際に鑑賞する機会の少ない子どもたちに、CDやテレビで味わうことのできない生のオーケストラの大迫力を体感できる機会を設ける。クラシックに親しむとともに、子どもたちが知っている曲もオーケストラで演奏するなど、子どもの興味を刺激し、音楽への興味と豊かな感性を育む。</p>
主な内容	<p>1 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団によるオーケストラ演奏 2 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団と子どもたちとの共演 中学生が事前練習を経て、オーケストラと共演した。事前練習では、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団員や指揮者によるアウトリーチ活動を行い、当日までの演奏練習を指導・サポートした。</p> <p>【事前練習】</p>  <p>【当日】</p>  <p>3 当日の体験活動 下記の体験活動を通して、子どもの音楽への興味・関心を喚起した。</p> <p>①指揮者体験 公演前のロビーで弦楽四重奏の指揮を体験した。このうち、希望者（2名）は公演中に舞台上で一部の指揮を行った。</p> <p>②バックステージツアー 公演前に舞台裏やホール内を案内し、当日の本番に向け準備が進められる様子を見学した。</p> <p>③ステージ上鑑賞体験 公演中にステージ上でオーケストラの演奏を間近で鑑賞した。</p> <p>④アナウンス体験 舞台袖で来場者へのお知らせなどのアナウンスを体験した。</p> <p>⑤楽器体験 オーケストラで使用される楽器を体験した。</p>
事業期間	平成24年度から実施（12年目）
実施日・期間	令和6年8月23日（金）公演14時～15時30分
実施場所	J：COMホール八王子

参加者数	<p>コンサート来場者数： 1,426名 (子ども[4歳～高校生]736名、保護者642名、関係者招待48名) 体験活動参加数：指揮者体験12名、バックステージツアー16名、アナウンス体験5名、楽器体験17名、ステージ上鑑賞体験29名 共演(八王子市立みなみ野中学校)：21名</p>	
事業評価	令和6年度事業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 高度で大規模な感動体験の提供の満足度 アンケートで5段階評価を行い、「大変良かった」又は「良かった」の合計割合が80%以上 2 指揮者体験などの体験活動に参加した子どもの満足度 アンケートで5段階評価を行い、「大変良かった」又は「良かった」の合計割合が85%以上 3 入場者数の確保 想定定員の80%以上(感染症対策を踏まえた適切な上限人数を定員とする) 4 参加者1人当たりのコスト 6,000円以下
	目標に対する実施結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 高度で大規模な感動体験の提供の満足度 アンケートで5段階評価を行い、「大変良かった」又は「良かった」の合計割合は98%であり、目標を達成した。 2 指揮者体験などの体験活動に参加した子どもの満足度 アンケートで5段階評価を行い、「大変良かった」又は「良かった」の合計割合は100%であり、目標を達成した。 3 入場者数の確保 入場者は定員の93%であり、目標を達成した。 4 参加者1人当たりのコスト 職員人件費を除く1人当たりのコストは4,725円であり、目標を達成した。
	達成度評価結果(自己評価)	<p>100%</p> <p>(理由) 今回は、当日の体験活動において、楽器体験で体験できる楽器の種類を増やしたり、バックステージツアーの内容を充実させたり、ステージ上鑑賞体験の対象人数を増やす等、体験機会のさらなる充実を図った。また、会場参加型の公演プログラムには、楽器紹介で誰もが知っているようなポピュラーな音楽を取り入れることで、子どもの関心につながる内容に工夫した。 また、参加者アンケートの結果から、参加者の満足度がきわめて高く、子どもの音楽への興味を育むきっかけとなったことが伺えた。 さらに、キャンセル待ち分のチケットの販売方法を見直したことで、例年よりチケットの購入者数が多くなり、より多くの入場者数の確保につながった。</p>
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	<p>クラシック音楽を初めて楽しむ方でも親しみやすい内容となるように、誰もが知っているようなポピュラーな音楽も演奏するなど、プログラムを検討する。 また、体験方法についても、子どもたちが手拍子などで参加できる会場参加型のプログラムや市内中学校吹奏楽部との共演プログラムなど、子どもたちの興味や関心につながる内容を検討し、令和6年度の申込者数及び入場者数を維持しながら、より満足度の高い事業となるよう取り組む。</p>

奥多摩町・神津島村子ども体験塾実行委員会

構成市町村等：奥多摩町、神津島村

子ども体験塾・神津島洋上セミナー

目 的	この事業は奥多摩町と神津島村に在住する少年少女が、学校や家庭以外の場で集団行動を行うことにより、社会性や協調性、自立、創造性を育み、また、他地域の少年少女と交流することにより、地域間交流を促進し、かつ地域の将来を担う少年少女の育成を図るため、小中学生を対象に洋上セミナーを実施する。		
主な内容	<p>1 親子説明会の実施 洋上セミナーの目的及び意義を理解し、神津島での生活の中で、活動班ごとに目標、目的を明確にし、奥多摩の子どもたちの育成を図ることができた。</p> <p>2 神津島での活動 神津島において、島内の生物を観察し、奥多摩町の自然との違いや、島に生息する動植物の多様性を学びシュノーケリング等の体験を行い、海に面する自然の素晴らしさを体験した。</p>		
事業期間	平成23年度から実施（13年目）		
実施日・期間	令和6年8月18日～8月21日		
実施場所	神津島		
参加者数	59人		
事業評価	令和6年度事業目標	山間地域と島しょ地域の子どもたちが普段の生活では交流することのできない互いの地域の子どもたちと交流すること、集団活動を行うことにより、将来の社会性・協調性などに良い影響を与える。 セミナー中は、色々な体験を踏まえ、心の成長や初対面の人との対応方法など、社会性を育むことを目標として、子どもたちの成長に良い影響を与えられる事業として実施する。	
	目標に対する実施結果	シュノーケリング教室等を体験し、奥多摩町の自然との違いや、島に生息する動植物の多様性を学ぶと共に、山間地域と島しょ地域という生活環境の違い子どもたちと交流する場を設け、親睦を深めることができた。 また、年長者である中学生をリーダーとしたグループを編成し、年少者の小学生と共に集団行動をすることにより、将来の社会性・協調性などに良い影響を与え、責任ある行動を促すことができた。	
	達成度評価結果（自己評価）	100 %	（理由） 新型コロナウイルスや台風等の影響も少なく、予定通り事業実施ができたため。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	令和6年度は、新型コロナウイルス等における体調不良者もなく、神津島村の方々と、海水浴などを通じて交流し、親睦を深める機会を多く創出することができた。令和7年度も引き続き、シュノーケリング等の活動を通じて神津島村の子どもたちと親睦を深めていく。また、令和6年度は星空観察会が中止となってしまったため、悪天候においても実施可能なイベントを検討していきたい。	

子ども雪国体験事業実行委員会

構成市町村等：昭島市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町、長野県栄村

子ども雪国体験事業

目的	<p>自然が豊富で、日本有数の豪雪地帯である長野県栄村（武蔵村山市姉妹都市）に子どもたちを連れて行き、高齢者宅の雪かき等ボランティア活動やスキー教室等、普段経験できない雪国ならではの暮らしや知恵を体験させる。また、地元の子どもたちとの文化交流、初対面の子どもたち同士での集団行動等を通じて、子どもたちの豊かな人間性や社会性をはじめとする様々な力を育むことを目的として実施する。</p>	
主な内容	<p>長野県栄村を舞台に、2泊3日の雪国体験事業を実施した。 雪国の楽しさと大変さを体験し、地域や学年の垣根を越えた交流を育むことができた。</p> <p>1日目：雪上運動会、館内レクリエーション</p> <p>2日目：スキー教室、雪かき等ボランティア</p> <p>3日目：絵手紙教室（栄村文化体験）</p> 	
事業期間	平成22年度から令和6年度（15年目）※平成23年度、令和2～4年度は中止	
実施日・期間	令和7年2月22日～令和7年2月24日	
実施場所	長野県栄村	
参加者数	62人（昭島市19人、東大和市14人、武蔵村山市15人、瑞穂町10人、長野県栄村4人）	
事業評価	令和6年度事業目標	<p>東京で生活している子どもたちが、日本有数の豪雪地帯である長野県栄村に行き、スキーやレクリエーションを体験することで、日常生活では経験できない楽しさとともに、生活の大変さを知る機会とする。また、初対面の子どもたち同士での集団行動等を通じて、子どもたちの豊かな人間性や社会性をはじめとする様々な力を育むことを目標とする。</p> <p>・事業実施後のアンケートで「楽しかった」と回答した参加者の割合：90%以上</p>
	目標に対する実施結果	<p>栄村は日本有数の豪雪地帯として特別豪雪地帯の指定を受けており、本年度は4メートルを超える積雪となった。警報級との天気予報がされていたが当初予定していたとおりに実施することができ、参加者アンケートでは93%が楽しかったと回答し、目標を達成した。</p>
	達成度評価結果（自己評価）	<p>90%</p> <p>（理由） 58名の回答者の内、54名が楽しかったと回答しており、子どもたちにとって良い体験になったと考えられる。 昨年度は交通渋滞によるトイレの問題などがあったが、今年度は随行スタッフのオペレーションを見直し問題を解決した。</p>
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	<p>参加者アンケートでは93%以上が楽しかったと回答し、特にスキー体験、雪上運動会、雪かき、雪下ろし体験について満足度が高い。アクティビティだけでなく、栄村での雪かき、雪下ろし体験は子どもたちがなじみのない地域の方との貴重な文化交流機会であることから、来年度もアクティビティと文化交流の両面において、引き続き参加者の満足度が高くなるような内容の事業を実施していく。</p> <p>各日の全体的なスケジュールに影響はしていないが、各イベントで時間が大幅に押してしまったり、早めに終わってしまったものもあったため、今回の実績を踏まえてより正確な時間管理を行うよう努めていきたい。</p>

秋川流域（あきる野市・日の出町・檜原村）子ども体験塾実行委員会

構成市町村等：あきる野市、日の出町、檜原村

秋流子ども体験塾 小中学生駅伝大会

目 的	秋川流域で連携することにより、流域の小中学生の交流が図られ、市町村職員の交流や自治体の事務処理等を学ぶことで、人材育成にもつなげていく。		
主な内容	<p>1 駅伝大会の実施（小学生の部、中学生男子・女子の部、ロードレースの部） 小学生男子の部1周：1区1.2km 2～4区1.1km 全4区間4.5km 小学生女子の部1周：1区1.2km 2～4区1.1km 全4区間4.5km 小学生ロードレースの部 1周1.2km 中学生男子の部1周：1区2.4km 2～4区2.3km 全4区間9.3km 中学生女子の部1周：1区2.1km 2～4区2.0km 全4区間8.1km ロードレースの部 男子1周：2.4km 女子1周：2.1km</p> <p>2 著名選手による実技指導 権沢和佳奈選手（パリオリンピック出場）に駅伝大会の参加者を対象とした指導をしてもらい、走り方のコツや自身の競技経験などを伝える。</p> <p>3 亜細亜大学や総合型地域スポーツクラブとの連携による事前講習会 放課後に各小学校を訪問して、1時間程度長距離走の技術指導や練習法に関する指導をする。</p>		
			
事業期間	平成23年度から実施（14年目）		
実施日・期間	令和6年11月5日～令和6年12月14日（事前講習会を含む）		
実施場所	東京都立秋留台公園		
参加者数	481人		
事業評価	令和6年度事業目標	4年ぶりに開催したため本事業について認知していない児童が多かったが、今年度は前年度開催したことにより認知している児童が増えることが予想されることから、それに伴って参加者数を増加させたい。	
	目標に対する実施結果	令和5年度の参加者数が427人に対して、令和6年度は481人の参加となり、前年度比12%増加となった。事前講習会の参加希望校が令和5年度7校に対し、令和6年度は12校と増加し、事業に対する学校の認知度や理解が得られたと考える。また、当日は権沢選手による講習会や伴走を行っていただき、児童生徒からの権沢選手に関するアンケートでは8割を超える好評を得られた。	
	達成度評価結果（自己評価）	100%	（理由） 参加者を増加させることができた。また、事前講習会の参加校及び参加者が増え、けがをしにくいフォーム及び早く走れるコツの習得ができ、競技力の向上、スポーツへの興味関心を引き出すことができた。

	<p>令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか</p>	<p>令和5年度で反省点として挙げた大会準備に時間かかり業務委託の検討や表彰に時間を要した点等については、改善する事ができた。主な改善点として、記録発表に二次元バーコードを利用し、混雑の回避や参加者・関係者へアンケートを実施し、8割の高評価を得ることができた。また、公園の改修工事に伴い、コースの変更、計測業者の変更、ホームページで記録発表などを行い、新たな課題が生じた。令和7年度は課題を業者や関係団体と事前に打ち合わせ等を行い、令和6年度の反省点を改善する。</p>
--	---	---

多摩市・稲城市子どもスポーツ体験塾実行委員会

構成市町村等：稲城市、多摩市、長野県富士見町

～プロから学ぼう～ 子どもサッカー体験事業

目 的

- 1 多摩、稲城両市が出資している東京ヴェルディのジュニア育成に関するノウハウを、2市の子どもたちと多摩市の友好都市である富士見町の子どもたちに還元する。
- 2 3市町による広域連携事業を、プロスポーツクラブである東京ヴェルディと協働して行うことにより、自治体間の連携を深めるとともに、各自治体の魅力を高める。
- 3 長野県の八ヶ岳に位置する、夏季でも冷涼で空気の澄んだ広いグラウンドや、清潔な集団宿泊施設である多摩市立八ヶ岳少年自然の家等の施設を活用し、大自然の中で子どもたちの健全育成を図る。
- 4 東京ヴェルディホームゲームを観戦し、プロの技を目の当たりにすることにより、子どもたちに大きな感動と夢を持ってもらう。

主な内容

多摩市、稲城市及び多摩市と友好都市である長野県富士見町の3市町の協働で、下記の事業を実施した。

1 夏季事業（サッカー教室）

- ・多摩市、稲城市、富士見町の小学生を対象に令和6年8月7日(水)から8月9日(金)までの期間、2泊3日のサッカー教室を実施した。
- ・東京ヴェルディのコーチが指導にあたり、サッカーの基本から応用、試合までの総合的な指導カリキュラムを展開し、サッカー技術の習得を図った。
- ・宿泊時の部屋割りを3～6年生の混成、並びに参加3市町の混成とし、学年や市町を越えた交流を深めた。



2 秋季事業（試合観戦／サッカー教室）

- ・夏季事業から一定期間経過後、11月10日(日)に味の素スタジアムで開催される東京ヴェルディのホームゲームに夏季事業参加者を招待し試合観戦を行った。
- ・試合前に味の素スタジアムのピッチで、東京ヴェルディのコーチ指導のもとサッカー教室を行った。サッカーの技術習得はもちろん、各市町の子どもたちが再び交流する機会となった。



事業期間	平成 23 年度から実施 (14 年目)		
実施日・期間	1 夏季事業：令和 6 年 8 月 7 日(水)から 8 月 9 日(金)まで(2泊3日) 2 秋季事業：令和 6 年 11 月 10 日(日) ※稲城市ヴェルディ応援DAYで実施		
実施場所	1 多摩市立八ヶ岳少年自然の家、富士見町総合グラウンド(練習場) 2 味の素スタジアム		
参加者数	1 91 名(多摩市 35 名、稲城市 37 名、富士見町 19 名) 2 58 名(多摩市 19 名、稲城市 23 名、富士見町 16 名)※保護者等同伴者を含まない。		
事業評価	令和 6 年度 事業目標	参加者アンケートで 95%以上の評価を得る。	
	目標に対する 実施結果	参加者アンケートで 99%が満足したと回答した。	
	達成度 評価結果 (自己評価)	100%	(理由) 参加者アンケートの満足度が目標値を達成したため。 (8月9日にアンケート実施。参加者 91 人を対象に実施。 提出 91 通 ※回収率 100%)
	令和 6 年度事業 評価結果を 令和 7 年度 事業内容に どう反映させるか	アンケート内で「友達がたくさんでき、コーチなどとも仲良くなれた」「楽しかった」「また参加したい」などの意見が多くあった。 学年や居住自治体を混成とすることで交流が深められているため、宿泊施設の部屋割りだけでなく、練習や試合時、またレクリエーションを通して、より多くの参加者と交流ができるようプログラムを組み、満足度の向上を図る。	

小金井・三宅島連携推進協議会

構成市町村等：小金井市、三宅村

青少年自然・文化体験交流事業 in 三宅

目 的	友好都市である小金井市・三宅村の児童と中高生のサブリーダーが、交流を通して様々な体験をすることで、今後成長していく上で必要な活力づくりと目標設定のための契機となり、将来に向けた両市村の更なる友好の絆を深めることを目的とする。	
主な内容	<p>三宅島全体をフィールドとした自然・文化体験学習及び自治体児童の交流事業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山体験学習、郷土資料見学 ・児童レクリエーション（アイスブレイク、BBQ） ・海辺の自然観察（フィッシュウォッチング、ビーチコーミング、船上自然観察） ・自然探索、バードウォッチング ・シーカヤック体験 ・三宅島伝統芸能鑑賞 	
事業期間	平成22年度から実施（15年目）	
実施日・期間	令和6年8月18日～令和6年8月21日	
実施場所	三宅島全体	
参加者数	25人（小金井市児童16人、三宅村児童6人、小金井市中高生3名）	
事業評価	令和6年度事業目標	<p>令和6年度は参加児童が、本事業の貴重な体験を振り返るだけでなく、再度三宅島を訪れたいと思えるきっかけを作ることにより、市民レベルでの交流が促進されることを目指す。</p> <p>また、中高生サブリーダー制度においては、平成30年に導入してから新型コロナウイルスの影響で事業を実施できなかった年度もあり、市内での認知度が低い状態にある。中高生サブリーダー制度の応募者数を減少させないように以前児童として参加したことのある経験者を含め、広報に力を入れていく。</p>
	目標に対する実施結果	<p>参加児童のアンケートでは三宅島の子と仲良くなれたとの意見が複数あり、また楽しかったことでは7割以上が三宅児童との交流を選ぶなど市民レベルでの交流の促進には一定程度の効果があったものとみる。</p> <p>また、中高生サブリーダーは市内中学校へのチラシ配布、市ホームページなどをはじめ、広報活動を行うことで募集人数3人に対し、8人の応募があった。</p>
	達成度評価結果（自己評価）	<p>90 %</p> <p>（理由） アンケートにおいても見受けられるように昨年度に比較し、市村の児童同士の交流がうまくいっており、今後も継続したい。また、サブリーダーについても過去参加者の応募もあり、周知が効果的にできた。</p>
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	<p>令和6年度アンケートにおいては、三宅島の子と仲良くなれたという意見も多くみられた。令和7年度については、三宅島の小学生だけでなく、中学生や高校生との交流も視野に入れ、それが叶わなくても、各アクティビティや交流の時間を充実したものにするよう、内容を精査する。</p> <p>また、広報活動については市ホームページに加え、LINEなどでの配信も行いながら、引き続き周知に努め、参加者、サブリーダーともに多くの方に情報発信をする。</p>



5市共同事業実行委員会

構成市町村等：武蔵野市、三鷹市、小金井市、国分寺市、国立市

5市共同事業「子ども体験塾」子ども宇宙フェスティバル・ココブンジ鉄道模型広場

目的	J R中央線沿線5市（武蔵野市、三鷹市、小金井市、国立市及び国分寺市）に在住又は在学の子ども達に、1市単独では実施困難な大規模で高度な感動体験を提供することを目的とする。		
主な内容	<p>1 <u>子ども宇宙フェスティバル</u> 【実施概要】</p> <p>①講演会（宇宙飛行士講演会、みんなでずっこけ宇宙体験、子ども宇宙教室） ②参加型イベント（宇宙工作教室） ③企画展示（宇宙服の展示、ブロックで作った未来の宇宙開発、日本の宇宙開発発祥の地・国分寺展）</p> <p>2 <u>ココブンジプラザ鉄道模型広場</u> 【実施概要】</p> <p>①参加型イベント（走らせられるホール内ぐるり一周コース、鉄道おもちゃ自由作成コーナー） ②企画展示（鉄道開発パネル展示）</p>		
事業期間	平成21年度から実施（15年目）		
実施日・期間	令和6年8月23日（金）～8月25日（日）		
実施場所	1 国分寺市立いずみホール、2 国分寺市立cocobunji プラザ		
参加者数	1 1,023人、2 約2,700人		
事業評価	令和6年度事業目標	「宇宙」と「鉄道」をテーマとした各種イベント等を実施することで、構成5市の子ども達に宇宙をより身近な存在として感じてもらうとともに、鉄道事業への興味・関心を深めるきっかけづくりの場とする。 参加者にアンケートを実施し、「興味を持てた」と回答した割合が75%程度となることを目標とする。	
	目標に対する実施結果	子ども宇宙フェスティバル参加者向けアンケートにて、有効回答者数56人のうち48人（85.7%）が、「興味を持てた」「とても貴重な体験をできた」等と興味・関心を深めるきっかけになった旨を回答した。 また、ココブンジプラザ鉄道模型広場参加者向けアンケートでは、満足度に係る設問について、88.2%が「満足」と回答した。	
	達成度評価結果（自己評価）	100%	（理由） 申請当初の予定どおりに事業を実施でき、アンケート回答も事業目標を上回ったため。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	対象年齢を小学生から中学生までに設定して実施する場合、テーマやプログラムによっては、関心度などに差が生じるという課題がある。 令和7年度は多学年の子どもたちが関心を寄せやすいテーマ設定を行い、幅広い年齢層が楽しめるようなワークショップを開催する予定である。 また、テーマは異なるものの、講演会など、令和6年度に人気があった企画を組み込み、子どもたちの興味を引くプログラム構成を検討している。	



多摩北部広域子ども体験塾実行委員会

構成市町村等：小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市、多摩六都科学館

宇宙をみる！知る！学ぶ！～最先端の宇宙科学と星を体験しよう！～

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段触れる機会のない最先端の宇宙科学や技術について知り、体験することで高度で大規模な感動体験を提供する。 ・ 最新の科学技術や星について知り、学ぶことで、子どもの知的好奇心や探求心を満たし、創造性を高める経験とする。 ・ 異なる地域及び年齢で構成されるグループでの活動を通し、協調性や社会性を学ぶ機会とする。 		
主な内容	<p>夏季・秋季・冬季で連続した内容で事業を実施 <夏季プログラム> 7月24日・27日・30日・8月1日・4日 JAXA筑波宇宙センター等の宇宙航空開発の現場を訪れ、宇宙科学に関連する最先端の技術を見学した。移動のバス内では元JAXA職員による宇宙食にまつわる講義等を受け、宇宙に関する理解を深めた。 <秋季プログラム> 10月20日・27日・11月10日・17日 星座の歴史やその変遷を学び、オリジナルの星座と星座にまつわるストーリーを協力しながら作成した。また、さまざまな天球儀についてVR技術等を活用したリアルな映像を通じて体験・学習した。 <冬季プログラム>12月15日・22日 秋季プログラムで作成したオリジナルの星座をプラネタリウムに投影し、保護者等に発表した。また、作品を多摩六都科学館に展示した。</p>		
事業期間	平成22年度から実施（15年目）		
実施日・期間	令和6年7月～令和6年12月		
実施場所	JAXA筑波宇宙センター・つくばエキスポセンター、多摩六都科学館		
参加者数	圏域5市に在住・在学の小中学生及び保護者 夏季プログラム：195人（小中学生） 秋季プログラム：69人（小中学生） 冬季プログラム：196人（内訳：小中学生55人、家族141人）		
事業評価	令和6年度事業目標	参加者アンケートで「楽しかった」又は「少し楽しかった」を選択した児童生徒の割合 80%以上	
	目標に対する実施結果	参加者アンケートで「楽しかった」又は「少し楽しかった」を選択した児童生徒の割合 96.8%（夏季プログラム）	
	達成度評価結果（自己評価）	100%	（理由） 宇宙への興味・関心が少ない子どもも当該プログラムでの体験・経験を通じて宇宙への探求心を向上させることができた。また、グループ活動を取り入れたプログラム構成とすることで、協調性や社会性を学ぶ機会の創出につながった。結果として高い満足度を得ることができた。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	夏季から冬季まで一貫したプログラムを構成することで、各プログラムとの関連性やテーマに関する深い学びを得ることができた。アンケート結果からも長期間の経験により継続した関心を持ち続けることができたなど高評価をいただいた。令和7年度以降も、一貫したテーマで年間を通じたプログラムを構築することで子どもの知的好奇心や探求心を満たす取組を展開する。	



大島・子ども体験塾実行委員会

構成市町村等：羽村市、あきる野市

大島・子ども体験塾

目的	大島・子ども体験塾は、羽村市とあきる野市が共同で開催し、地域間・異年齢間の交流や、大自然を舞台とした様々な活動及び体験を通じて、心身を鍛え、自らの力で積極的に社会に貢献できる人材を育成することを目的とし、「創造、感動、自立」をテーマに実施した。		
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> 事前活動 参加者同士の絆を深めることを目的とし、班ごとの役割分担決めや体験塾の概要説明、ポイントオリエンテーションを行った。 現地活動 夜景観賞、郷土資料館見学、磯の自然観察、シュノーケリング体験、椿油しぼり体験等 事後活動 体験塾の修了式、記録映像（DVD）の鑑賞、班ごとに壁新聞作成・発表を行った。 壁新聞展示等 あきる野市役所1階コミュニティホールに展示（9月） 羽村市生涯学習センターゆとろぎ 地下ロビー・展示室に展示（11月） 		
事業期間	平成22年度から実施（15年目）		
実施日・期間	令和6年8月8日（木）～令和6年8月11日（日）		
実施場所	大島町		
参加者数	42人		
事業評価	令和6年度事業目標	<ol style="list-style-type: none"> 事業実施後に参加者に対して実施する大島の基礎知識についてのテストにおいて、すべての問いに対し、正答率75%以上を達成する。 事業実施後に参加者に対して実施する満足度アンケートにおいて、4段階中最上位の項目を選ぶ人が全体の80%か、4段階中上位2以上を選ぶ人が70%以上かのいずれかを達成する。 	
	目標に対する実施結果	<ol style="list-style-type: none"> 基礎知識テスト：5問中4問については、正答率75%以上を達成。1問については正答率60%のため未達成。 満足度アンケート：全ての問いについて、4段階中上位2以上を選ぶ人が70%を達成。 	
	達成度評価結果（自己評価）	70%	（理由） <ol style="list-style-type: none"> 問いに対して全体の正答率が高い結果であったが、1問正答率が60%であった。 多くの参加者が満足するアンケート結果であった。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	アンケートでは満足度が高い結果であったが、目標1の正答率では一部問題によっては、正答率が低いため、令和7年度では、より学習することのできる施設に見学する取組を行う。	

青梅市・羽村市・瑞穂町子ども体験塾実行委員会

構成市町村等：青梅市、羽村市、瑞穂町

子ども体験塾「YouTuber って何してる？」

目的	<p>小学生がなりたいたい職業ランキング第1位（進研ゼミ小学講座調べ）である「YouTuber」をキーワードに、「YouTuber 体験」のワークショップで子どもの創造性や自己表現力を身につける機会とする。 また、今流行している YouTuber の公演を鑑賞することで「将来への知見を広げる」「夢や希望を与える」機会とする。</p>			
主な内容	<p>1 「YouTuber になってみよう！」（ワークショップ） YouTube に投稿する動画を作成する際やネットを使用する際に注意すべき個人情報の扱いについて学習。撮影する動画のシーンやセリフをまとめ、2～3人で1組となり商品(玩具)を紹介する動画を撮影。 1人1台の iPad を使用し、音楽・文字・エフェクトなどの編集を学び、実践した。自分で編集をした動画については、ワークショップ講師の FULMA 株式会社から YouTube 限定公開 URL を参加者へ LINE を通して送信しプレゼントした。</p> <p>2 「サイエンスライブ」（ホール公演事業） 科学実験系 YouTuber の市岡 元気 氏（株式会社 GENKILABO）を招き、プリモホールゆとろぎ大ホールにてクイズ形式で子どもたち参加型の科学実験を用いたサイエンスライブを実施。実験以外にも出演者が YouTuber として普段気を付けていること（ネットリテラシーについて）を公演した。</p>			
事業期間	平成 22 年度から実施（15 年目）			
実施日・期間	令和 6 年 8 月 6 日（火）、8 月 7 日（水）、8 月 8 日（木）、8 月 10 日（土）			
実施場所	プリモホールゆとろぎ（羽村市生涯学習センター）、S&D たまぐーセンター（青梅市文化交流センター） 瑞穂ビューパーク・スカイホール			
参加者数	<p>1 「YouTuber になってみよう！」 190 名（子ども：107 名 保護者観覧：83 名） 2 「サイエンスライブ」 379 名（子ども：172 名 保護者：207 名）</p>			
事業評価	令和 6 年度事業目標	<p>1 ワークショップ企画において各回の申し込み人数が定員を上回るようにする。 2 各事業において、参加人数が定員の 7 割になるようにする。 3 令和 5 年度の満足度は 80% を上回ったため、令和 6 年度は引き続き満足度を 80% 以上となるようにする。</p>		
	目標に対する実施結果	<p>1 全 6 回のうち 5 回は定員を超す申し込みがあったが、残り 1 回は定員に達しなかった。 2 参加人数について、ワークショップについては定員の 70% 以上、ホール公演事業は定員の 44% だった。 3 ワークショップ・ホール公演事業ともに「とても良かった」「良かった」と回答した参加者が約 90% であった。</p>		
	達成度評価結果（自己評価）	80 %	<p>（理由） 上記事業目標のうち、2 つは部分的未達成、1 つは達成したため。</p>	
	令和 6 年度事業評価結果を令和 7 年度事業内容にどう反映させるか	<p>ワークショップについては、こういった方、団体が講師を務めるかという部分の広報が足りなかった。内容や講師を明確にし、広報を行う必要がある。 ホール公演事業においては、定員に対する参加者人数が 44% であり空席が目立つ結果となった。令和 7 年度のホール公演事業は小・中学生が学ぶことができ、かつ楽しめる存在であり知名度のある講師に依頼することで、子どもの参加意欲を高めるとともに保護者への訴求効果を高め、集客へとつなげる。</p>		

町田市・多摩市・稲城市子ども体験塾実行委員会

構成市町村等：町田市、多摩市、稲城市

町田市・多摩市・稲城市子ども体験塾 2024

<p>目 的</p>	<p>1 音の不思議実験とプラコップで作るヘッドホン 町田市に本社を構える「株式会社オーディオテクニカ」と連携し、同社の持つ高い技術やノウハウを活かし、子どもたちにとって日常にあふれている「音」をテーマとした体験教室を実施する。体験教室では、子どもたちが自ら発見し、学ぶという視点を持つきっかけや、日常の中に感動を見いだせるような体験を提供する。また、多摩地域の企業が持つ、ものづくり技術や知識の発信及び魅力向上に寄与する。</p> <p>2 テーマパークスタッフにチャレンジ！ サンリオピューロランドのテーマは“「なかよく・かわいい・たのしい」を最高のおもてなしと共に提供する”ことであり、このテーマに沿った「スタッフ体験」を通して、人とのコミュニケーションや達成することの感動に触れる機会を子どもたちに提供する。</p>
<p>主な内容</p>	<p>1 講義、実験、実習（制作）で構成する体験講座を、【当日の様子】 年齢層別に2コースに分け、内容の難易度を変えて実施した。 座学で知識を学ぶだけではなく、楽しい実験や制作を交えながら、身近にある音についての理解を深め、興味を広げるきっかけとなるような講座内容とした。</p> <p><コース名、対象者> A：通常コース 小学4年生～18歳 B：親子参加コース ※ 小学校1年生～3年生（及びその保護者） ※親子参加コースでは保護者も一緒に参加し、大人と子どもで聞こえる音の違いなどを体験をした。体験自体は子どもたちが主体的に行い、保護者は、小学校低学年では難しい機器の操作や刃物等の取り扱いの補助を担った。</p> <p>2 A：ショースタッフプラン（8時間・3日間・6コース） 実際にピューロランドで活躍するライブエンターテイナーから、ピューロランドで大人気のパレード「Miracle Gift Parade」上演前に実施するダンスのレッスンを受け、ピューロビレッジにおいてオリジナルコスチュームを着てゲスト（来場者）の前でダンスを披露した。 3日目のダンス発表会では、メルヘンシアターにてキャラクターと一緒にダンスを発表した。 B：サービススタッフプラン（6時間30分・2日間・4コース） サンリオピューロランドスタッフとなって、実際にサンリオピューロランドに遊びに来たゲスト（来場者）に、ピューロランドスタッフと同じコスチュームを着て接客し、ゲストと直接触れ合うなかで感謝される喜びやゲストサービスのやりがいを体感した。</p>   <p>© 2025 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. P1601163</p>
<p>事業期間</p>	<p>平成22年度から実施（15年目）</p>
<p>実施日・期間</p>	<p>1 令和6年7月27日（土）、令和6年7月28日（日） 2 令和6年7月24日（水）～令和6年9月7日（土）の内、21日（21回）</p>
<p>実施場所</p>	<p>1 ぽっぽ町田 2 サンリオピューロランド</p>
<p>参加者数</p>	<p>1 145名（内訳 A：88名 B：57名） 2 A：117名 B：73名 合計190名</p>

	令和6年度 事業目標	<p>1</p> <p>(1) 定員以上の応募を目指す。 (2) 参加者にはアンケートを実施し、全参加者の満足度が90%以上となることを目指す。</p> <p>2</p> <p>本事業は多摩市内に立地するテーマパーク「サンリオピューロランド」の協力を得て、ショーへの出演やスタッフ体験を通して、人と関わりあう楽しさや、達成することの感動を味わってもらふことを目的に実施。</p> <p>(1) 本事業は、「テーマパークスタッフ」という体験を通じて、働くことに対するやりがいや喜びを提供し、実際にお客様と接し非日常を体験してもらうことで、子どもたちの元気と笑顔を引き出す。 ショースタッフコースにおいては、最終日に実施する発表会にご家族やご友人を招待することで、家族や友人とのコミュニケーションのきっかけに寄与したい。</p> <p>(2) 設定した全てのコース（ショースタッフプラン・サービススタッフプラン）において、参加者が定員に達することを旨とする。また3市の子どもたちが偏りなく事業に参加できるようにする。</p> <p>(3) 参加者にはアンケートを実施し、全参加者の満足度が100%となることを目指すとともに、将来の夢につながる憧れや、希望を体感してもらえよう取り組む。</p>
事業評価	目標に対する 実施結果	<p>1</p> <p>(1) 総定員155名に対し、申込総数は649件であった。講座ごとの申込みについても全て定員を上回る申込みとなり、目標を達成することができた。 (2) 参加者へ実施したアンケートの結果では、「楽しかった」「すこし楽しかった」の割合は99.3%であり、目標を達成することができた。 ※ 上記以外の回答は「楽しくなかった」の1件のみ。</p> <p>2</p> <p>(1) 3市の子どもたちがサンリオピューロランドにおいて、スタッフ研修、ゲストへのダンス披露・サービス接客対応の体験を通じて、仕事に対するやりがいや喜び、働くことの大変さ・楽しさを知るとともに、参加者・現場スタッフとの交流、また非日常的な経験ができたことでの喜びや感動から、将来の夢・希望につながる感想が多くあった。ショースタッフコースにおいては、最終日に実施する発表会へ家族や友人を招待することで、家族や友人とのコミュニケーションのきっかけに寄与することができた。</p> <p>(2) 3市連携により市立小中学校全児童・生徒へ募集チラシを配付し、応募数は614件となった。すべてのコースで定員以上の申し込みがあった。また、3市の人口割合を加味した市ごとの人数枠を設定し、各市の子どもたちが偏りなく事業に参加できるように努めた。</p> <p>(3) 参加者全員に実施したアンケート項目の内容に関しては、「楽しかった」との回答が98%を超え、次回の参加に関しても98%が「参加したい」との声をいただいたことから、今回の体験内容に対する満足度は非常に高かった。</p>
	達成度 評価結果 (自己評価)	<p>(理由)</p> <p>1 目標の1、2ともに目標を上回る結果となったため。</p> <p>2 応募が614件、当選倍率が2.9倍と高倍率となり本事業への関心は高いものとなった。アンケートにおいても98%が「また参加したい」と回答しており、高い満足度を得ることができた。満足度は非常に高かったものの目標である100%満足度には達することができなかった。</p>
	令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか	<p>1 令和6年度の申込倍率は平均で約5倍となり、多くの関心が寄せられたことから、引き続き事業の周知方法を工夫し、令和7年度の事業周知にも活かしていく。</p> <p>2 多摩市に所在する株式会社サンリオエンターテイメントが有する経営資源を最大限活かしながら、サンリオピューロランドで子どもたちに日常では体験できない活動にチャレンジできる機会と活躍の場を提供し、感動を体験してもらうことを目的に平成28年度、平成29年度、令和元年度、令和3年、5年、6年度に本事業を実施してきた。</p>

		<p>令和6年度事業は、定員 212 名に対しての申込者数は 614 名で 2.9 倍の当選倍率となり、成果指標の一つである参加者アンケートの集計結果から事業内容の満足度はかなりの高水準を示しているため、本事業への期待は高いものがあつたと捉えている。同じコース参加者同士の自発的な声掛けなどお互いにフォローする場面も多く見られ、障害の有無を問わずに体験ができる本事業は、お客様はもちろん参加者とのコミュニケーションや、物事を達成することの感動に触れることが可能である。今後も引き続き、子どもたちに活躍と感動体験の場を提供していく。</p>
--	--	---

2 観光振興連携活動事業

多摩地域インバウンドガイド連絡協議会

構成市町村等：立川市・国立市・国分寺市・一般社団法人立川観光コンベンション協会・特定非営利活動法人国立市観光まちづくり協会・一般社団法人こくぶんじ観光まちづくり協会

多摩地域インバウンド受け入れ拡大のためのガイド人材養成・育成事業

目的	<ul style="list-style-type: none"> ○「多摩地域」「立川」のファンを増やすことで、地域のにぎわいや回遊性の創出や観光消費額の増大につなげ、持続可能な地域社会に寄与する。 ○シビックプライドの向上を図る。 ○質の高い有償ガイドを育成することにより観光産業の収益化を目指し、事業期間終了後の民間による自走化を実現、地域経済へも寄与する。 ○近隣大学の多摩地域への関心度向上を図る。
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 インバウンドガイド養成講座受講者募集及び選考 市広報、SNS、ホームページにて募集し、309人の応募を得た。そのうち書類選考により70人に対して研修を実施した。 2 インバウンドガイド講座「座学」の実施 渋谷区観光案内所を運営する㈱ジェイノベーションズから講師を招聘し、インバウンドに関する最新の情報、ツアーガイドを行う上での注意事項等、グループワークを含めながら受講した。 3 インバウンドガイド講座「実地研修（青梅・奥多摩）」の実施 小澤酒造㈱及び奥多摩地域振興財団が実施するツアーを実際に体験。ガイドからツアー実施の際のコツや注意点を学ぶ。 4 インバウンドガイド講座「実地研修（立川・国立）」の実施 ファール倶楽部が実施するアートツアー及びくにたち農園の会にて農業体験を体験。ガイドからツアー実施の際のコツや注意点を学ぶ。 5 ツアー企画ワークショップの実施 グループに分かれ来年度催行するツアーの概略を作成するワークショップを実施する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
事業期間	令和6年度～令和10年度（5年間）
実施日・期間	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和6年7月1日～令和6年8月31日 2 令和6年9月7日、9月29日 3 令和6年10月14日、11月2日 4 令和6年11月16日、11月30日 5 令和7年2月2日
実施場所	<ol style="list-style-type: none"> 2 立川市役所 会議室 3 青梅・奥多摩エリア 4 立川・国立エリア 5 くにたち未来共創拠点 矢川プラス
参加者数	<ol style="list-style-type: none"> 2 2日間計 62名 3 2日間計 51名 4 2日間計 52名 5 55名

事業評価	令和6年度 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会準備委員会の立ち上げる ・20人以上のガイド候補者を発掘 ・20以上の観光関連事業者へ周知啓発を行う 	
	目標に対する 実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会を立ち上げ、令和6年11月1日には新たに国分寺市及び一般社団法人こくぶんじ観光まちづくり協会が加入した。 ・令和7年1月31日時点で55名に対して研修を実施した。 ・プレスリリース、立川観光コンベンション協会のネットワークも介して市内を始めとした観光関連事業者に広く周知した。 	
	達成度 評価結果 (自己評価)	100 %	(理由) 令和6年度の事業参加者は70人であり、成果目標を大きく上回った。一方で、想定以上に多数からの研修応募があったため、選考により研修を受講できなかった方のすくい上げが課題となった。 本事業の開始が周知されたことで、市内ホテルや商工会議所等からのニーズの掘り起こしがされ始めている。
	令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか	選考により研修を受講できなかった方のすくい上げのため、令和7年度はSNS上での活動を活性化させることにより、事業全体のレベルの底上げ及びガイド人材の層の肥厚化を図る。今後、ツアーを販売するにあたり収益化できるかといったリスクがある。事業自走化に向けて、確実な収益化に向けた販売方法等の検討及び利益配分の方法について整理を進める。	

多摩北部都市広域行政圏協議会

構成市町村等：小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市

多摩六都の魅力発掘・発信プロジェクト

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・緑あふれる多摩六都の魅力を圏域内外に浸透させ、「選ばれるまち」になる ・シビックプライドを醸成し、市民や事業者の参加による持続可能な魅力発信を実現する 		
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 多摩六都の観光資源の発掘・発信 多摩北部都市広域行政圏協議会Webサイトにプロジェクトに関するページを新たに作成し、プロジェクトについてのPRを進めるとともに新たに発掘した観光資源の情報を掲載した。 多摩六都の観光資源の冊子を発行し、回遊性イベントや各市の窓口等で配布するとともに、西武鉄道株式会社の協力いただき、西武新宿駅、池袋駅、所沢駅に配架した。また、東京観光情報センターへも配架を依頼し、圏域外への配架を進めた。 2 多摩六都の魅力を発信する動画制作に向けた調査 動画制作事業者のヒアリングを行う等、コンセプト決定に向け、必要な事項を洗い出すとともに、市民参加による動画制作等の事例を調査した。 3 イベント等を通じたシビックプライドの醸成 公園担当部署との関係者会議を立ち上げ、今後のイベントに向けた検討を開始した。 		
事業期間	令和6年度～令和10年度（1年目）		
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
実施場所	小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市		
参加者数	-		
事業評価	令和6年度事業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 プロジェクト会議を立ち上げるに向けた関係者会議の立ち上げ 2 観光資源の発掘：10件 3 関連Webページの表示件数：12,500件 4 冊子の活用：回遊性イベントのアンケート回答者の半数が認知・活用 	
	目標に対する実施結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 公園担当部署との関係者会議を立ち上げた 2 観光資源の発掘：19件 3 関連Webページの表示件数：17,448件 4 冊子の活用：発行が遅れたため、アンケートが実施できず 	
	達成度評価結果（自己評価）	50%	（理由） 令和7年度に予定していたプロジェクトのWebサイトページ発信を前倒しで事業を実施した点はよかったが、冊子の活用について、アンケート実施が令和7年になったことが大きく反省すべき点となった。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	観光資源冊子の発行が遅れ、回遊性イベントの終盤からの配布となったため、令和6年度は認知に関するアンケートが出来なかったため、令和7年度はイベント開始時から配架し、アンケートを実施する。	



福生・昭島発！地酒と深層地下水の魅力を広める協議会

構成市町村等：福生市、昭島市、福生市観光協会、一般社団法人昭島観光まちづくり協会、グッドライフ多摩

福生・昭島発！地酒と深層地下水の魅力を広める事業

<p>目 的</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 福生市の地域資源である「地酒」と昭島市の地域資源である「深層地下水」の魅力発信を通じて、地域資源が育まれた背景や歴史、文化とともに「食」を共通項とした近場で楽しめるツーリズムを造成し、地域消費額の増加を目指す。 2 隣接する2市が、交通の要衝でもある拝島駅を基軸としたツーリズムを調査・研究することで、福生や昭島への流入人口増加の機会創出や経済波及効果の向上を目指し、地域経済の活性化を図る。 3 民間企業等とも連携し、福生市の地域資源である「地酒」と昭島市の地域資源である「深層地下水」を活かした新たな魅力の発信に取り組む。
<p>主な内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域資源の磨き上げによる魅力発信 <ul style="list-style-type: none"> ■コンセプトとモデルコースを検討するワークショップの開催 福生市の地域資源である「地酒」と昭島市の地域資源である「深層地下水」に関連する一般事業者を対象とし、事業の根幹となるコンセプトやモデルコースの案を出していただくワークショップを開催した。 一般事業者は福生市・昭島市から10名の方が参加をいただき、実地の意見を反映したモデルコースの作成や、コンセプトストーリーの作成につなげられた。 ■モニターツアーの実施 ワークショップにおいて地域事業者からあげられたコースをことに、2つのモデルコースを作成し、次のとおりモニターツアーを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ●福生コース 実施日：令和7年1月25日 参加者4人（一般モニター） ●昭島コース 実施日：令和7年1月27日 参加者4人（一般モニター） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="336 1189 778 1520" style="text-align: center;">  <p>(福生コースモニターツアー)</p> </div> <div data-bbox="855 1189 1318 1532" style="text-align: center;">  <p>(昭島コースモニターツアー)</p> </div> </div> <ol style="list-style-type: none"> 2 若者の力を活用した福生 <ul style="list-style-type: none"> ・昭島の新たなファン層の獲得 一日から一週間程度の実施期間で、福生市と昭島市の魅力発信及びそれに関する誘客案を作成していただく事業を検討するにあたり、アイデアの募集方法や若者の参加しやすい事業について、多摩大学の松本教授にヒアリングを実施。
<p>事業期間</p>	<p>令和6年度～令和10年度（1年目）</p>
<p>実施日・期間</p>	<p>令和6年7月1日～令和7年2月28日</p>
<p>実施場所</p>	<p>福生市・昭島市</p>

参加者数	ワークショップ参加者：一般事業者 10 人 モニターツアー参加者：福生市 4 人・昭島市 4 人		
事業評価	令和 6 年度 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福生と昭島をつなぐモニターツアーの開催 2 回 ・若者からのアイデアを集めるためのスキームを構築し、次年度に備える 	
	目標に対する 実施結果	<p>モデルコースを決めるワークショップにおいては、地元事業者からの参加もあり、目指すべき姿やPRしていくべきものについて、実際に事業を営む事業者目線の忌憚ないご意見をいただきました。</p> <p>それを基に 2 つのコースを作成してモニターツアーを実施した。福生市の酒と昭島市の水をはじめとした観光資源を見ていただき、体験してもらうことができた。</p> <p>また、多摩大学との協議を図り、大学生をはじめとした若い層からのアイデア集約方法におけるスキーム構築を図ることができた。</p>	
	達成度 評価結果 (自己評価)	70 %	<p>(理由)</p> <p>当初は拝島駅を基軸として両市をまたぐコースの検討も行ったが、1 日で巡ることを想定すると、ワークショップにてあげられた観光スポットを回りきることは難しく、福生コースと昭島コースという 2 つのコースを作成した。今回のモニターツアーを基に、次年度も商品化に向けたルート作成を実施していく。</p>
	令和 6 年度事業 評価結果を 令和 7 年度 事業内容に どう反映させるか	<p>今回作成したモデルコースも魅力度の高いものであったが、商品化をしていくという点においては、他の観光地に比べてまだ弱い部分があることを、モニターツアーを通して実感した。</p> <p>次年度はさらに磨き上げを行い、外部から人を呼び込むための仕組みやPR方法を検討する。</p>	

福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト協議会

構成市町村等：福生市、羽村市、瑞穂町、福生市観光協会、一般社団法人羽村市観光協会、瑞穂町観光協会

福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト事業

<p>目 的</p>	<p>2市1町は往来もスムーズにできるコンパクトなエリアであり、そのエリア内で味わえる《体験》をテーマとして都心部や近隣県に住む方々をターゲットに、気軽に行ける観光地として、地域資源の再発見や既存コンテンツの磨き上げを行いながら2市1町の魅力を結ぶルートを満喫するツアー造成やサイト構築等を行い、認知度向上と新たな交流人口の獲得を目指すことを目的とする。</p>
<p>主な内容</p>	<p><モデルコース・観光コンテンツの磨き上げ></p> <p>■1年目に洗い出したモデルコース・観光コンテンツをもとにさらに洗い出しを行い、2市町以上をまたぐモデルコースを4本作成した。</p> <p>■上記で作成したモデルコースをもとに紙 MAP を作成している段階であり、2月中旬に納品予定。本紙 MAP については、駅や公共施設等に配架、自治体ホームページに公開するなどし、PR活動を行う。</p>  <p><旅行会社向けのモニターツアーの開催と事業者マッチング></p> <p>■モニターツアーの実施</p> <p>モニターとして、株式会社東京山側 DMC や近畿日本ツーリスト株式会社をお呼びし、2市町以上をまたぐモニターツアーを3日間（3本）実施し、終了後、座談会として情報交換会を実施した。</p> <p>●福生・瑞穂コース 実施日：12月3日（火）参加者 9名 20～30代男女カップル or 夫婦をターゲットに古民家やグルメをテーマにしたコースとした。瑞穂町の耕心館や郷土資料室を巡り、福生市の旧ヤマジュウ田村家住宅を巡った。終了後、座談会では古民家を幅広く活用出来ると良いや常にガイドがついていたら良い等のご意見をいただいた。</p> <p>●福生・羽村コース 実施日：12月4日（水）参加者 7名 20～30代男女カップル or 夫婦をターゲットにカフェ・インスタ映えをテーマにしたコースとした。福生市のベースサイドストリートを散策後、羽村市のカフェや動物園を巡った。終了後、座談会ではベースサイドストリートは可能性を秘めており、観光資源の発掘が見込まれるとのご意見やインスタ映えという観点でロケ地としての使用促進についてのご意見をいただいた。また、動物園については、ナイトサファリなど実行できないかとのご意見があった。</p> <p>●福生・瑞穂コース 実施日：12月5日（木）参加者 8名 50代～男女カップル or 夫婦をターゲットに歴史を巡るコースとした。瑞穂町のシクラメン街道を巡り、旬なシクラメン畑を見た後、羽村市の取水堰や郷土資料館にて歴史を感じるコースとした。終了後、座談会ではシクラメンの体験型のコンテンツがあると良いやネットの情報更新、写真を撮りたいと思うビジュアルスポットが必要等の意見をいただいた。</p>    <p><PRのターゲット選定と効果的なPRの実施></p> <p>■前年度の分析結果をもとにPRのターゲットを決定し、訴求効果が高いメディア等を用いてPRを実施するため、株式会社リクルートが運営するじゃらん net の自治体ページに計2回6か月間（1回目10月から12月、2回目1月から3月）掲載した。多くの方に閲覧いただき、各自治体で使えるクーポンを獲得率が高かったものの、実際に行使する方は10%以下であり、今後の観光コンテンツの発掘や磨き上げがさらに必要となる結果であった。</p>

			
事業期間	令和5年度～令和9年度（2年目）		
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年2月28日		
実施場所	福生市、羽村市、瑞穂町		
参加者数	モニターツアー参加者数 福生市 7名 羽村市 3名 瑞穂町 3名 事業者 11名		
事業評価	令和6年度事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社、交通事業者向けのモニターツアー参加者数 20名 ・モニターツアーの商品化数 3～5個 ・ターゲット層への訴求効果が高い情報誌等におけるPR実施 	
	目標に対する実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターツアーには旅行会社、ツアーを実施する事業者等に参加いただき一般のモニターと合わせ24名が参加し、意見交換を実施した。 ・商品化となるコースを4個作成し、紙MAPやじゃらんnet等でターゲットへ周知を行った。 ・紙MAPやじゃらんnetを作成し長期間周知することでPR効果があった。 	
	達成度評価結果（自己評価）	70%	<p>（理由）</p> <p>当初は、旅行事業者等と連携し、モニターツアーの商品化を目指していたが、若年層の観光形態が主体的にオリジナルのツアーを組むスタイルの変化していることを受け、観光コンテンツのPRを核として取り組んだ。</p> <p>次年度は、他事業者と連携し、観光資源の発掘や磨き上げを行っていく。</p>
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	<p>若年層の観光形態の変化に伴い、デジタルパンフレットや訴求効果の高いPRを実施する。またモニターツアー実施後の情報交換会にて、3市町には体験型のコンテンツが少ないことから、令和7年度は、民間事業者等の力を借りながら観光資源の磨き上げや発掘を行っていく。</p>	

シェアサイクル観光連携推進協議会

構成市町村等：福生市、立川市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市、OpenStreet 株式会社

シェアサイクル観光連携推進事業

目的	シェアサイクルの同一フォーマットを使用している近隣自治体と連携し、シェアサイクルを軸とした観光地等の相互連携を推進させるなど、新たな広域コミュニティの形成及びその活性化を図る。		
主な内容	<p>構成自治体の市域においてシェアサイクルの貸出・返却を行い、観光地にチェックインした方へ次回利用時に使用可能な乗車クーポンを配布するとともに、訪問した参加自治体の数だけ応募でき、抽選で特典が当たるキャンペーンを令和6年10月から11月の2か月間で行った。</p> <p>上記キャンペーンにおいて、各市が魅力ある観光地の選定をすることはもちろん、特典には各市の特産品や観光地にちなんだ賞品等を用意し、参加者へのシティプロモーションを図った。</p> <p>また、広域連携の認知度向上のため、事業コンセプトを視覚的に伝えるランディングページ及び構成自治体のご当地キャラクターが一堂に会したデザインのキャンペーンポスターを作成し、周知を行った。</p>		
事業期間	令和4年度～令和6年度（3年目）		
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
実施場所	立川市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、福生市、東大和市、武蔵村山市		
参加者数	観光地への訪問（チェックイン）：5,106回 クーポン付与条件達成回数：4,867回 クーポン配布対象者数：1,561名		
事業評価	令和6年度事業目標	事業（キャンペーン等）への参加を通じた、シェアサイクルの広域利用の促進 【数値目標】 1回・1か月当たり事業（キャンペーン等）への参加（条件達成）回数の令和5年度比115.9%増（約1,250回）	
	目標に対する実施結果	クーポン付与条件達成回数は4,867回（1か月当たり約2,434回）であり、目標を達成した。	
	達成度評価結果（自己評価）	90%	（理由） キャンペーンの実績やアンケートにおける満足度は令和5年度と比べてかなり向上したが、キャンペーンの周知方法等に関する意見があり、まだまだ満足度を向上させる要素があると感じたため。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	ここ数年で多摩地域においてもシェアサイクルを導入する自治体が増えてきており、この事業を通じてシェアサイクルの手軽さや利便性を普及するとともに、シェアサイクルを近隣市への移動や観光の手段として多くの利用者に意識づけてきたと考える。 今後も引き続き、シェアサイクル及びそれを活用した観光を普及できるよう周知していく。	



北多摩縄文連合

構成市町村等：調布市、東村山市、国分寺市、国立市、西東京市

北多摩縄文の里

目的
文化財行政に関しては、国も文化財を「保存」から「保存と活用」へと政策を変換している。また、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録される等、今、「縄文」に注目が集まっている。北多摩地区にも、国の文化財に指定されている縄文時代の貴重な遺跡、出土品が存在する。そこで、貴重な縄文時代の遺跡を持つ市で連合を組み、縄文の魅力・歴史的意義をPRし、地域振興及び広域観光を推進する。

多摩地域北部で縄文時代の国指定の史跡や重要文化財を有する5市（調布市・国分寺市・東村山市・国立市・西東京市）で連合を組織し、「北多摩縄文の里」として、地域の縄文のPRとしてパンフレットを作成し、縄文への興味を抱きながら各市を巡ってもらうことにより、地域振興や観光を促す活動を行った。

1 縄文ノートの作成

参加5市の縄文時代の説明や観光スポットを記載したパンフレット「縄文ノート」を作成した。内容は、縄文時代の概要、市毎の地図（周辺案内、観光情報）と縄文時代の遺跡や遺物の説明、ちょっと一息つけるような観光情報を掲載した。また、スタンプラリー（詳細は下記）のスタンプ帳としても使用できるノートとした。説明文章等のレベルは、小学校高学年以上を対象として作成した。

2 北多摩スタンプラリーの実施

参加5市の縄文時代の説明や観光名所を巡っていただくことを目的とした、スタンプラリーを実施した。参加の対象者は、博物館の来館者とし、特に小中学生とその保護者に興味を深めていただくことを意識し、それらの方々に親しみをもっていただくことを意識したチラシやノートを作成した。スタンプラリーのチラシや縄文ノートは、参加5市のチェックポイントで配布した。また、縄文関連の講演会や学校等へ配布することにより、スタンプラリーへの参加を促した。

各市の特徴を踏まえたスタンプを作成することで、参加者に楽しみながらスタンプを集めていただくことをねらいとした。5市で10か所のチェックポイントを回ることで、集めたスタンプの数に応じて景品を入手できることとし、スタンプを3個集めるとエコバック、10個全て集めるとボトルを差し上げることにした。今年度はさらにデジタル版のスタンプラリーを実施し、5市で9か所のチェックポイントを回ることで、ノートと同じく集めたスタンプの数に応じて景品を入手できることとし、スタンプを3個集めると5市のオリジナル壁紙、9個全て集めると5市分全部の各キャラクター壁紙をダウンロードできるようにした。

主な内容

縄文ノート（表）



（裏）



チラシ



（景品） エコバック



ボトル



デジタルスタンプラリー（壁紙）



事業期間	令和4年度から令和8年度（3年目）													
実施日・期間	令和6年7月20日～令和7年1月31日（景品引き換え2月16日まで）													
実施場所	調布市・国分寺市・国立市・西東京市・東村山市													
参加者数	5,566名（縄文ノート配布数による）、デジタル版は332名（ログイン数による）													
事業評価	令和6年度事業目標	スタンプラリー参加者 360名（2市以上を回った景品の配布数）												
	目標に対する実施結果	参加者数 5,566名に対し、景品の配布数はエコバックが877枚、ボトルが350個であった。事業目標の対象は2市以上（スタンプ3個）を回ることによって景品を渡すため、エコバックの配布数を対象（目標）とした。 5市の縄文時代について説明を記載した「縄文ノート」は、読み物として大変ご好評をいただいたことで今年度も配布数は伸びた。2市以上を回り景品を受け取った参加者数は目標を達成できた。												
		<table border="1"> <tr> <td>【エコバック】</td> <td>【ボトル】</td> </tr> <tr> <td>・調布市 187枚</td> <td>・調布市 70個</td> </tr> <tr> <td>・国分寺市 197枚</td> <td>・国分寺市 70個</td> </tr> <tr> <td>・国立市 200枚</td> <td>・国立市 70個</td> </tr> <tr> <td>・西東京市 157枚</td> <td>・西東京市 70個</td> </tr> <tr> <td>・東村山市 136枚</td> <td>・東村山市 70個</td> </tr> </table>	【エコバック】	【ボトル】	・調布市 187枚	・調布市 70個	・国分寺市 197枚	・国分寺市 70個	・国立市 200枚	・国立市 70個	・西東京市 157枚	・西東京市 70個	・東村山市 136枚	・東村山市 70個
	【エコバック】	【ボトル】												
	・調布市 187枚	・調布市 70個												
・国分寺市 197枚	・国分寺市 70個													
・国立市 200枚	・国立市 70個													
・西東京市 157枚	・西東京市 70個													
・東村山市 136枚	・東村山市 70個													
達成度評価結果（自己評価）	100 %	（理由） 5市の距離は離れているが、3年目でリピーターがいること、魅力ある景品に変えたこと、昨年に引き続き開催時期を夏休みからとすることで参加者が増えたことから、非常に大きな成功を収めることができた。 縄文ノートも好評であったが、来年度以降もリピーターも含め、引き続き、飽きのこない記載内容とする。												
令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	「縄文ノート」は、縄文時代を解説する内容であり、手に取っていただいた方や参加者からも大変好評であった。ただし、地域観光に繋がったかの判断に具体的に把握する取組が不十分であり、令和7年度はアンケート収集により参加者からの声を集め、各市内に留まらず、5市を回遊する意欲を高めたい。 令和6年度も開催期間を夏休みの始まる7月20日とすることで、小中学生とその保護者をはじめとする参加者の増加が図れた。また、新たにデジタル版のスタンプラリーを開始したことで飽きのこない記載内容とすることができた。 令和7年度は、さらにデジタルラリーの内容を充実させて、より一層、各市の特産品の宣伝や、お店等との連携と情報発信による事業の相乗効果を図る。													

東京アドベンチャープロモーション協議会

構成市町村等：青梅市、奥多摩町、青梅市観光協会、奥多摩観光協会、御岳山観光協会、青梅商工会議所、東日本旅客鉄道八王子支社

東京アドベンチャープロモーション事業

目 的	新規作成するエリア観光PR動画の更なる発信		
主な内容	<p>< SNSを活用した認知度の向上 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・青梅市・奥多摩町の観光情報を総合的に発信するアカウントを設け、インスタグラムに観光施設や季節の魅力、イベント情報などの質の高い情報をリアルタイムに発信した。また、都心のファミリー層への影響力の高いインフルエンサー等を活用し、投稿した情報がターゲットに適切に届けた。 ・地域の事業者や住民の有志である「情報発信隊」による投稿を行うとともに、スキルアップを兼ねた撮影研修会を開催した。 <p>< 観光PR動画共同プロモーション ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信隊が現地で撮影した訪問・体験レポート動画をアップし、次の週末の来訪につながるプロモーションを行うとともに、登山・ハイキング、リバーアクティビティ、キャンプ、バーベキュー、フィッシングなど、テーマ別に投稿した。またインフルエンサー及び情報発信隊が投稿した動画の総集編を作成した。 ・フォロワーの積極的な情報発信を促すためフォト&ムービーコンテストを開催した。 <p>< MAPを活用した情報発信 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信隊が取り上げた施設などを一覧で表示できる青梅・奥多摩エリア周遊MAPを作成し、ホームページ等で閲覧できるようにした。 <p>< その他 ></p> <p>淑徳大学経営学部と連携し、学生フィールドワークの受け入れなど観光プロモーションに資する人材育成を実施した。</p>		
事業期間	令和3年度から令和7年度（4年目）		
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
実施場所	青梅市、奥多摩町		
参加者数	20人（協議会、部会メンバー）、情報発信隊3名（青梅市2名、奥多摩町1名）		
事業評価	令和6年度事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムのフォロワー数：8,000人（2,500人増） ・インスタグラム投稿数：200件 	
	目標に対する実施結果	<p>インスタグラムフォロワー数 15,316人（3月4日現在）</p> <p>インスタグラム投稿数 159件（3月4日現在）</p>	
	達成度評価結果（自己評価）	90 %	<p>（理由）</p> <p>上半期で目標のフォロワー数8,000人を大幅に上回ることができた。さらなるフォロワー獲得のためWEB広告やフォト&ムービーコンテンツなどPR活動を実施した。また来年度が最終年度であるため、自立化に向けて運営体制について方針を定める必要がある。</p>

	令和5年度事業 評価結果を 令和6年度 事業内容に どう反映させるか	フォロワー獲得に向けて、投稿内容の修正を令和5年度途中から実施しており、令和7年度も引き続きリーチ数やフォロワー数などを見ながら随時修正を実施していく。また自立化に向けた運用制度などを協議していく。
--	--	---

多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト実行委員会

構成市町村等：多摩市・稲城市・八王子市・日野市・町田市・多摩大学総合研究所・京王観光株式会社

多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト

目的	本プロジェクトは、マイクロツーリズムを『地元や近隣を含めた広義の「観光まちづくり」』と定義し、「地元の魅力」を再発見や、地域に造詣の深い人材の発掘などを通し、地元自治体や観光協会、事業者同士の信頼関係を根付かせることにより、地域内関係人口を増やし、地域経済への貢献を目指すことを目的とする。		
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> 事前説明会 4月26日・コンテストの概要及び構成自治体のPRを実施 シンポジウム 5月14日・「学生のアイデアを社会実装するには」のテーマで自治体・事業者で意見交換を実施 マッチング会 6月15日・学生が考えた企画をブラッシュアップ フィールドワーク 8月～11月にかけて1次審査通過チームが考えた企画の実証実験を実施 ドラフト会議 12月16日・最終審査会及び企業とのマッチングを実施 		
	 <p>(2024年ドラフト会議・最優秀賞の発表)</p>		
事業期間	令和3年度～令和6年度（4年目）		
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年2月21日		
実施場所	多摩大学、町田新産業創造センター、パルテノン多摩、リンクフォレスト		
参加者数	延べ311人		
事業評価	令和6年度事業目標	<ol style="list-style-type: none"> 応募件数（企画数）：30件 マッチング数（1のうち、実際にマッチングした数）：10件 2のうち、事業化（収益事業としての運営を行っていく者）の数：2件 応募した大学生、審査員、参加自治体・事業者等へのアンケートによる意識変化、満足度等：満足度70% 	
	目標に対する実施結果	<ol style="list-style-type: none"> 応募件数（企画数）：20件 通過数11件 2年目の活動チーム1件 マッチング数（1のうち、実際にマッチングした数）：23件 2のうち、事業化（収益事業としての運営を行っていく者）の数：0件 応募した大学生、審査員、参加自治体・事業者等へのアンケートによる意識変化、満足度等：満足度100% 	
	達成度評価結果（自己評価）	80%	<p>（理由）</p> <p>応募件数は目標を下回ったものの、実証実験に進んだチームは前回よりも多く、また前年度に引き続いて活動を続けるチームも多かったことは評価できる。またマッチング数も目標の2倍であり、企業の目に止まる企画が多かったが事業化に繋がるものがなかったことが課題としてあげられる。</p>
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	本年で最終年度。	

3 一般連携活動事業

A I 技術の活用に関する広域連携検討会			
構成市町村等：武蔵野市、小金井市			
A I 技術を活用した業務効率化に関する課題研究			
目 的	A I 技術の活用による業務効率化について、各市での実証実験を通じて、共通する業務課題の解決に向けた検討を行う。		
主 要 内 容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 70%;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 現状分析・調査 各市におけるA I 技術に関する取組状況及び課題を整理するとともに、先進事例の調査を行った。 2 勉強会及び合同研修会 担当者が参加する勉強会で各市における現状や課題について意見交換するとともに、自治体DXをテーマに、広く各市の職員を対象とした職員合同研修会を開催し、音声認識A I の専門家による講演を行った。 3 効果検証 音声認識A I による議事録作成ツールとマイク機材について、各種会議や打ち合わせで実際に利用し、有効性を評価した。 </div> <div style="width: 25%; text-align: center;">  </div> </div>		
事業期間	令和6年度（1年目）		
実施日・期間	令和6年10月31日～令和7年1月31日		
実施場所	武蔵野市役所、オンライン会議など		
参加者数	延べ94名（構成市職員等）		
事業評価	令和6年度事業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 実証実験にて実施した業務の効果検証を4件実施する。 2 参加者アンケートで、総合的な満足度（5段階評価）平均4以上を目指す。 3 各市における令和7年度導入に向けた予算化を目指す。 	
	目標に対する実施結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 42件の会議において、音声認識A I による議事録作成ツールの効果検証を実施した。 2 効果検証参加者のアンケートによると、業務効率化に関する評価の平均は3.4（5段階評価）だった。 3 一部の自治体において、令和7年度の予算化が実現した。 	
	達成度評価結果（自己評価）	70 %	<p>（理由）</p> <p>事業目標の達成には至らなかったものの、42件の効果検証ができ、音声認識A I による議事録作成ツールを業務で活用するにあたっての課題を整理することができた。効果的に活用するためには、会議の運営方法の見直しやマイク機材の整備が必要である。</p>
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	効果検証から見てきた課題を踏まえ、ツールの本格活用に向けた環境の整備等を実施していく。今年度で東京都市長会の助成金を活用した連携事業は終了となるが、引き続き各市で情報共有を行いながら、業務の効率化を図ってきたい。	

多摩ニュータウン沿線まちづくり魅力発信プロジェクト実行委員会

構成市町村等：八王子市、多摩市、稲城市、京王電鉄株式会社、独立行政法人都市再生機構

多摩ニュータウンに関する情報発信事業

目的	<p>「多摩ニュータウン」に関わりのある八王子市、多摩市、稲城市、京王電鉄株式会社、独立行政法人都市再生機構の3市2企業が従来の自治体や企業の枠を超えて情報発信事業を実施することで、多摩ニュータウンの魅力や多様な住まい方を周知し、域外からの移住促進をする。</p>	
主な内容	<p>1 Instagramアカウント「移住のたま子さん」の運営 3市2企業が持つ多摩ニュータウンの魅力や広報誌に掲載している日常生活に必要な情報を、見せ方の切り口を変えることで閲覧者に届けていく。居住市だけでなく、近隣市や鉄道沿線の情報も届けていく。</p> <p>2 広告宣伝活動 5者が持つ広報手段を有効活用し、アカウントの周知を促進する。 広報誌掲載、京王線駅貼りポスター(画像：右掲出) 多摩ニュータウンでのイベント時にPRカード(画像：左/中)配布</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>《PRカード(表)》</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>《PRカード(裏)》</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>《PRポスター》</p> </div> </div>	
事業期間	令和6年度～令和8年度（1年目）	
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日	
実施場所	<p>1 Instagram 2 京王線駅 3 イベント会場</p>	
参加者数	<p>1 Instagramフォロワー数：1,417人（令和7年1月9日時点） 2 ポスター掲出：30駅 3 PRカード配布：840枚</p>	
事業評価	令和6年度事業目標	<p>1 投稿数：365件 2 フォロワー数：1,000人</p>
	目標に対する実施結果	<p>1 投稿数：706件（令和7年1月13日時点） 2 フォロワー数：1,417人（令和7年1月9日時点）</p>
	達成度評価結果（自己評価）	<p>60%</p> <p>（理由） 投稿数は706件で目標を341件（+107%）上回ったが、フォロワー数は10月に当初の1,000人を上方修正した3,000人に対し、1,417人（令和7年1月9日時点）と目標を△1,583件（△52.8%）と達成できなかったため。</p>
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	<p>令和7年度の目標フォロワー数は5,000人としている。 投稿記事の質を向上させるため、掲載する写真を撮影してもらうアンバサダーを6名まで採用（+3名）する。 リアルなイベントやフェアに参加し、PR活動を強化する。</p>

空き家等対策連携協議会

構成市町村等：調布市、三鷹市、狛江市、民間事業者、大学

空き家等対策連携広報啓発事業

<p>目的</p>	<p>構成自治体が民間事業者及び大学と連携（以下本頁において「広域連携」という。）して空き家等対策事業を展開することにより、空き家問題への関心を高め、空き家が持つ負のイメージを払拭するとともに、空き家に関する相談会やイベント等を通じて、空き家の利活用や市場流通を促し、空き家の解消、地域の活性化に繋げる。</p>		
<p>主な内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 季刊誌「空き家新聞」の発行 広域連携し季刊誌「空き家新聞」を発行する。 空き家所有者等への送付、自治会の回覧板等での周知、構成自治体等のホームページやSNS、その他イベント等で発信する。 2 継続的な相談支援の確立 空き家所有者や空き家利活用希望者、空き家に興味のある方の相談を継続して対応できるよう体制を確立し、売買や利活用へ向けた課題の解消、空き家の市場流通（売買）・利活用希望者とのマッチングに繋げる。 3 空き家ツアーの開催 空き家所有者や空き家利活用希望者、空き家に興味のある方を対象とした空き家ツアーを開催し、物件の内覧や参加者同士の交渉の場を設けマッチングに繋げる。また、参加者から活用に向けた課題を聞き取り、より効果的なマッチング体制の構築を検討する。 4 連携体制の確立に向けた調査検討 広域連携による空き家解消に向けたスキームを確立するため、各市における相談内容・傾向について共有・分析し、広域連携の在り方を検討する。また、2年目以降に発行する「空き家新聞」の掲載内容の検討や、連携自治体拡大に向けた、より広域での連携体制の構築を目指す。 		
<p>事業期間</p>	<p>令和6年度～令和11年度（1年目）</p>		
<p>実施日・期間</p>	<p>令和6年7月2日～令和7年3月31日</p>		
<p>実施場所</p>	<p>各構成市町村等</p>		
<p>参加者数</p>	<p>-</p>		
<p>事業評価</p>	<p>令和6年度事業目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家新聞の認知度向上による空き家所有者からの相談・問合せ件数増加 各市10件 ・相談体制の構築 	
<p>目標に対する実施結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家新聞を発行し、空き家所有者からの相談・問合せ件数増加 各市10件（現状合計17件） ・相談傾向を把握し、継続的な相談支援体制の構築に向けての調整をした。 		
<p>達成度評価結果（自己評価）</p>	<p>80 %</p>	<p>（理由） 各市空き家新聞を通じて相談・問合せを受けることができた。 継続的な相談支援体制の構築に向けての調整をすることができた。</p>	
<p>令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか</p>	<p>より広域での「空き家新聞」の認知度向上のため、令和7年度では、連携団体の拡大を目指す。広域での発行を通して相談会や空き家ツアーの参加者数の増加に繋げる。</p>		

日野市・三鷹市生成A I 利活用推進研究会

構成市町村等：日野市、三鷹市

日野市・三鷹市生成A I 利活用推進事業

目 的	同規模自治体での生成A I 利活用における効果や課題を検証し、業務効率化を目指す。		
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 対話型生成A I の利用形態やサービス内容を調査、導入 →利用回線、オプトアウト、履歴保存日数、導入費用、運用費用、ライセンス、特徴など調査 2 両市職員の生成A I に関する理解状況等をアンケートで確認 →日野市 366 名・三鷹市 351 名(合計 717 名)にアンケートを実施 →約半数が生成A I に関する知識なし 3 先進自治体のガイドラインを参考に、利用マニュアルを作成 →研修用のマニュアル作成及び研修を動画で撮影し配信 4 講師を招いての研修会の開催 【研修】各市で6回開催、日野市 98 名・三鷹市 120 名(合計 218 名)参加 【アイデアソン】両市で1回開催、25 名参加 5 利用者アンケートによる効果、課題検証 →全体の 80%以上が継続利用を希望 		
事業期間	令和6年度～令和8年度（1年目）		
実施日・期間	令和6年5月21日～令和7年3月31日		
実施場所	両市の市役所及び公共施設		
参加者数	延べ243人（参考：令和6年度に開催した生成A I 活用研修及び生成A I アイデアソン参加者数）		
事業評価	令和6年度事業目標	<ol style="list-style-type: none"> ①職員 100 名以上の研修会参加 ②具体的な利用業務における 10%以上の効率化 	
	目標に対する実施結果	<ol style="list-style-type: none"> ①事業開始前のアンケートでは、50%以上の職員が生成A I に関する知識がなかったが、今年度終了時は、85%の職員が生成A I について理解を深められたと回答している。 ②アンケート回答者の 90%以上が削減効果あった。また、30%以上の回答者は、年間 10～50 時間の削減があったと回答した。 	
	達成度評価結果（自己評価）	80 %	（理由） 研修会やアイデアソンを通じて、両市の職員が「生成A I がどういうものなのか」について理解を深めることが出来た。また、職員への生成A I 活用効果アンケートにより、生成A I 活用による業務効率化への効果を実感することが出来た。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	研修会やアイデアソンのアンケートでは、生成A I に関する理解を深めることができたという声が挙がる一方で、今後は「文書生成A I」にとどまらず「画像生成A I」や「音声生成A I」の活用を希望する声も挙がったため、令和7年度事業にて実際に活用・研究を行う。 生成A I を活用するうえで、現時点では両市においてガイドラインが策定できていない状況である。令和7年度については、令和6年度の事業で洗い出したリスク（著作権や偽の情報等）を深堀りし、ガイドライン策定を目標とする。	



日野市・多摩市・稲城市DX人材育成推進研究会

構成市町村等：日野市、多摩市、稲城市

日野市・多摩市・稲城市DX人材育成推進事業

<p>目 的</p>	<p>デジタル技術やデータを活用した業務改善や業務効率化、利用者中心の行政サービスへの転換、少子高齢社会における将来的な公務員の不足を見据えた生産性の向上など、現在の自治体においてDXへの取り組みは必須となっている。</p> <p>これらの推進に当たっては、経営層、管理層から一般職員に至るまでの共通理解の形成や、職員一人一人の意識の醸成が重要である。</p> <p>本研究会では、IT (DX) リテラシーアセスメントに基づく効率的かつ効果的な研修プランの立案及び実施を通じ、各市のDX人材育成方針の策定を目指す。</p>
<p>主な内容</p>	<p>1 IT (DX) リテラシーアセスメントの実施 ITパスポート試験相当の知識などを問う、全100問選択式のアセスメント及びDXマインド・DX志向性アセスメントを実施。職員（会計年度任用を除く）3市合計2,434人のうち1,523人が受検した。</p> <p>2 アセスメント結果の分析 アセスメント全体の傾向として3市間で大きな差異はないことが分かったが、民間企業を含む全体平均と比較するとスコアはやや下回る結果となった。 ITリテラシーは、セキュリティの数値が高く、インフラ、ビッグデータ、クラウドの数値は低い傾向にあった。 DXマインドは、全体として意識・動機はあるものの、行動には至っていないという結果が見られた。DX志向性は、「デジタル活用への好み」「デジタルの日常的な許容」といったデジタルライゼーションの志向性が強く、「実験的な取り組み」「変革・創造プロセスの許容」「新たな文化づくりへの適応」といったデジタルトランスフォーメーションの志向性は、やや弱い傾向であった。</p> <p>3 分析結果に基づく研修の実施 分析結果に基づき、「行動」を促すマインドセット研修（「DX基礎研修」「管理職向けDXマネジメント研修」）及び、DXによる「価値創造」「生産性の向上」「品質の向上」の志向性を向上させる研修（「部署別BPR研修」「サービスデザイン研修」）を実施した。</p> <p>4 アンケート結果に基づく効果検証 「DX基礎研修」「部署別BPR研修」「サービスデザイン研修」について効果検証を実施した。いずれの研修も9割以上が理解したと回答したが、特に部署別BPR研修については、「非常に満足」の回答割合が、資料満足度においては他の2倍（34.5%）、講師満足度については他の3倍（48.3%）であった。 また、他者への推奨度を示すNPSスコアについても、「DX基礎研修」（-14.3）、「部署別BPR研修」（6.9）、「サービスデザイン研修」（-18.2）と唯一プラスの値となった。</p> <div data-bbox="954 591 1342 618" data-label="Caption"> <p>【研修の様子（部署別BPR研修）】</p> </div> <div data-bbox="943 622 1439 992" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1038 996 1345 1023" data-label="Caption"> <p>個人ワークに取り組む様子</p> </div> <div data-bbox="943 1061 1439 1431" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="978 1435 1410 1462" data-label="Caption"> <p>ワークの内容を踏まえてグループ検討</p> </div> <div data-bbox="943 1500 1439 1870" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1098 1874 1283 1901" data-label="Caption"> <p>検討内容を発表</p> </div>
<p>事業期間</p>	<p>令和6年度～令和8年度（1年目）</p>

実施日・期間	令和6年5月28日～令和7年3月31日		
実施場所	日野市役所、多摩市役所、稲城市役所		
参加者数	(アセスメント) 日野市 666 人、多摩市 394 人、稲城市 463 人 計 1,523 人 (対面研修) 日野市 48 人、多摩市 44 人、稲城市 47 人 計 139 人		
事業評価	令和6年度事業目標	1 DXアセスメントによるデジタルリテラシーの状況を可視化 2 研修プランの作成	
	目標に対する実施結果	1 DXアセスメントによるデジタルリテラシーの状況を可視化した 2 研修プランを作成した	
	達成度評価結果 (自己評価)	80 %	(理由) 事業目標に対する実施結果は達成しているものの、研修プランの内容について十分な検討を行うには至っていない。また、各市のDX人材育成方針の策定については、オンライン会議等により活発な情報交換を行い、各市での検討促進に寄与したものの、結果的に3市間で進度にばらつきが生じた。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	アセスメント結果に基づく研修については、令和7年度事業から本格実施となる。特に、ITリテラシーでスコアの低い結果の出ている分野について、必要な研修を実施していく必要がある。また、令和6年度実施の研修の効果測定結果から、より研修実施効果が高まるような対象者の選定について、検証を重ねていく。 このほか、人材育成による充足が困難な分野に対し、外部人材を登用することについて検討を行う。	

日野市・多摩市 多様な学びの場構築広域連携協議会

構成市町村等：日野市、多摩市

多様な学びの場構築広域連携事業

目的	<p>学校へ通いづらい子どもたちや居場所を見つけづらい大人たちなどの「ひきこもり」人口が増加していることが大きな地域課題となっています。そこで、多摩市と連携して多摩地域の地域資源を広域的に活用し、様々な世代が交流しながら自分自身を掴み、その能力を発揮できる学びの場づくりにより市民暮らしを豊かにする事業を実施するものです。</p>	
主な内容	<p>【令和6年度の事業成果】</p> <p>1 参加する子どもたちの特性をアセスメントするシステム及び事業紹介ホームページの完成</p> <p>2 日野市・多摩市の地域資源の調査を行い、探究プログラムの企画・運営を協働できる地域住民・団体等を募り事業の実施体制の確立 ■日野市5名の参加 ■多摩市3名の参加</p> <p>3 鎌倉市教育委員会の協力により、地域住民・団体に「かまくらULTLAプログラム（海・森）」体験研修に参加してもらい、「ULTLAプログラム」運営ノウハウの情報共有を図る。</p>	 <p>海のパログラム</p>  <p>森のパログラム</p>
事業期間	令和6年度～令和10年度（1年目）	
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日	
実施場所	<p>1 リサーチラボ（行政・株式会社SPACE・コアメンバーによる会議体） 開催場所：日野市・多摩市・オンライン会議</p> <p>2 「かまくらULTLAプログラム」体験研修 ア）鎌倉海岸 イ）浄智寺</p>	
参加者数	<p>1 リサーチラボ 開催数 5日間、参加者数のべ21名</p> <p>2 「かまくらULTLAプログラム」体験研修 （ア）鎌倉海岸 参加者数 4名 （イ）浄智寺 参加者数 1名</p>	
事業評価	令和6年度事業目標	<p>1 サイト・アセスメントシステムの完成</p> <p>2 2市の地域資源（地域団体・拠点等：各市5か所又は5名程度）の調査</p> <p>3 【行政】地域と学校教育を結ぶネットワークの形成</p>
	目標に対する実施結果	<p>1 【行政】サイト・アセスメントシステムの完成 →「ひのたまULTLA」事業紹介サイト、アセスメントシステムが完成する。</p> <p>2 【行政】2市のリソース調査 →「ひのたまULTLAプログラム」に活用できる2市の地域資源（地域団体・拠点）一覧が完成する。</p> <p>3 【行政】地域と学校教育を結ぶネットワークの形成 →①探究プログラムの企画・運営を協働できる地域住民・団体等を募り事業の実施体制の確立。 →②鎌倉市教育委員会の協力により、地域住民・団体に「かまくらULTLAプログラム」体験研修に参加してもらい、「ULTLAプログラム」運営ノウハウの情報共有を図った。</p>

	達成度 評価結果 (自己評価)	100%	(理由) 2市の協働により、システム等の完成や地域住民・団体とのネットワークを構築することができ、令和6年度の目標を全て達成することが出来たから。
	令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する子どもたちの興味関心や特性をアセスメント（査定）するシステムを運用し、市民と地域団体と共に多摩地域の地域資源を活用した探究学習プログラムを運営していき、様々な世代が交流しながら自分自身を掴み、その能力を發揮できる多様な学びの場づくりを実施する。 ・市民と地域団体と共にリサーチラボ（研修）とインパクトデイ（成果発表会）を開催し、2市内の情報共有を図る。 	

気候変動対策自治体ネットワーク

構成市町村等：日野市、府中市、多摩市、昭島市

気候変動対策広域化事業

目的	気候市民会議などの気候変動対策の共有と、次のアクションの横展開による 2050 年カーボンニュートラル達成	
主な内容	<p>1 合同気候市民会議「気候市民会議 NEXT」 これまでに気候市民会議を実施した自治体とその参加者（市民）が一堂に会し、それぞれの会議の経過を振り返り、アウトプットを共有、新たな気づきや視点を獲得、各地域の取り組みを持続・加速させていく場として企画。</p>  <p>2 気候 YOUTH 会議 多摩地域には多くの大学が集積しており、近年では ESD、SDGs 教育が行われている事を背景として、社会課題に関心を持ち、取り組む学生も増えてきている。気候変動をテーマに連携する自治体が大学や高校等の教育機関、学生へ直接アプローチし、学び・行動する機会を創出する事で、若年層の価値転換・主体的な行動につなげ、多摩地域における持続的な気候変動アクションを起こす人材の育成を支援する。</p> <p>3 気候変動対策自治体ネットワーク 気候非常事態ネットワークを自治体同士のノウハウを共有する自立・分散・協調型のプラットフォームとする事を目指し、まずはその意識を共有する自治体との協働によりその枠組み構築を進める。また、次のアクションや横展開につなげる場とし、各自自治体及び自治体協働での気候変動対策を実施していく。</p>	
事業期間	令和6年度～令和8年度（1年目）	
実施日・期間	1 令和7年1月11日（土） 2 第1回：令和7年3月9日（日）、第2回：3月16日（日）	
実施場所	東京たま未来メッセ	
参加者数	1 47人（うち日野市23人、多摩市24人） 2 第1回：26人（うち日野市5人、府中市11人、多摩市10人） 第2回：26人（うち日野市8人、府中市12人、多摩市6人）	
事業評価	令和6年度事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行的に気候市民会議を実施した日野市・多摩市の結果を持ち寄り、内容の洗練 ・取り組んでいる事業（気候市民会議等）を周辺市への横展開 ・各自自治体の気候変動対策ノウハウを持ち寄り、実績をつくることで参加自治体増

	<p>目標に対する 実施結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合同気候市民会議（気候市民会議 NEXT）と気候 YOUTH 会議の実施（複数の他区市の見学を受け入れ） ・ネットワーク外の市（調布市等）も含めたオンライン会議の実施 ・昭島市の参加 	
	<p>達成度 評価結果 （自己評価）</p>	<p>70 %</p>	<p>（理由） 連携事業を複数実施し、市民参画を含めた横展開を実施できた。一方、自治体同士の連携基盤を固めて施策を共有し、次の展開を見据えた整理が必要。</p>
	<p>令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか</p>	<p>まずは各区市町村の気候変動対策及び連携のタネ（企業や学校連携など）の共有を深め、知見を集めていくことで、各市の取組のブラッシュアップを図りながら、連携事業を模索していく。</p>	

公共交通経路検索サービス導入による人流活性化事業

構成市町村等：多摩市、調布市、京王電鉄株式会社

公共交通経路検索サービスの導入による人流活性化事業

<p>目 的</p>	<p>ICTを活用して多摩地域内外の移動利便性を向上させるとともに、イベントや店舗、観光名所などの情報を一元化して見せることで、外出の動機づけを図り、コロナ影響により落ち込んだ域内人流を活性化させる。</p>
<p>主要内容</p>	<p>1 「お出かけ情報サービス」の公開・運用及び周知 ○サービス概要 令和6年5月1日公開。「JRリアルタイム経路検索」による経路検索、調布市及び多摩市の地域情報（イベント情報、店舗情報、ニュース情報）と連携し構築したマップ、マップ上のスポットを繋いだモデルコースの3つの機能を備える。 ○サービス運用 連携する自治体及び団体で定期的に意見交換を行い、随時地域情報の更新や改修に取り組みながら運用する。また、当サービス内に常設のアンケートフォームやイベントへの出展機会等を活かして意見聴取を行い、市民参加による地域情報やモデルコースの追加にも取り組む。 ○サービスの周知 公開にあわせてプレスリリースを行ったほか、利用者増加を図るため、連携する自治体及び団体を中心にイベント情報の広報等とあわせて当サービスの周知を行った。</p> <p>2 人流活性化の促進 連携自治体が市主催イベント等の情報発信やスタンプラリー等の親和性のある企画において当サービスを活用し、参加を促す取組を行う。また、街中にポスター掲示等を行い、市域の回遊を促進する。</p> <p>3 効果検証 Google Analytics を活用して当サービスの利用状況を定期的に分析するとともに、アンケートフォームを使って利用者からの意見を集め、それらの情報をサービス拡充の参考として活用する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>トップ（マップ画面）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スポット画面</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>モデルコース画面</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>周知用ポスター（調布市）</p> </div> </div>
<p>事業期間</p>	<p>令和5年度～令和7年度（2年目）</p>
<p>実施日・期間</p>	<p>令和6年4月1日～令和7年3月31日</p>
<p>実施場所</p>	<p>-</p>
<p>参加者数</p>	<p>-</p>

事業評価	令和6年度 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> サービス提供開始時期：令和6年5月頃 サービス利用者：新規2,000人、継続利用350人 	
	目標に対する 実施結果	<ul style="list-style-type: none"> サービス提供開始時期：令和6年5月1日 ユニークユーザ数：1273.7 新規ユーザ数：1102.2 平均滞在時間：27.1秒 (Google Analytics で取得したアクセスデータの月間平均) 	
	達成度 評価結果 (自己評価)	60 %	(理由) <ul style="list-style-type: none"> サービスを公開し、関係団体で協議しながら継続的にサービスの改善や拡充に取り組むことができた。 新規ユーザの数は確保できたものの、滞在時間の短さから分かるように、機能に対する評価を十分得ることができなかった。
	令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか	<ul style="list-style-type: none"> イベント出展等の機会を利用して新規ユーザの利用を促すとともに、新規ユーザの滞在時間を増やすため、初めて開いたときに使い方の説明を表示するサービス改修を行い、搭載されている機能を実際使っていただくことで、定性的な評価を得る。 継続利用ユーザを増やすため、お気に入り登録の機能追加や2回目以降に開いたときに新着情報を表示するサービス改修を行う。 以上の取組によりユーザ数を確保し、アクセスデータの信頼性を向上させ、定量的な評価を行い、補助事業終了後の展開の検討に繋げる。 	

島しょ町村における事務事業の共同化等検討会

構成市町村等：八丈町、利島村、新島村、三宅村、御蔵島村、小笠原村

島しょ町村における事務事業の共同化

目的	<p>今後、全国的に本格的な人口減少の時代を向かえることが予測されるなかで、自治体の規模が小さい島しょ地域の町村では、地理的要因による職員の採用難や、子どもの高校進学、親の介護などを契機とした中堅職員の退職などにより、業務に関するノウハウの蓄積・継続が困難であることから、厳しい行財政運営を強いられている。</p> <p>こうした状況を各町村が単独の取組により改善していくことは容易ではないため、本事業は島しょ町村が共同して各町村共通の事務事業の共同処理を推し進め、効率化を図ることにより、産業振興や観光振興等における広報活動など職員が現場でしか対応できない業務に注力できる環境を確保し、島しょ町村の「将来にわたって持続可能な行政経営基盤の確立」及び「住民サービスの更なる向上」の実現を目的としている。</p>		
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から児童手当・児童育成手当の支給事務などについて共同処理を開始 ・令和6年度から給与処理業務の共同処理を開始 		
事業期間	令和5年度～令和9年度（2年目）		
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
実施場所	-		
参加者数	-		
事業評価	令和6年度事業目標	令和5年度に詳細検討を行った「給与処理業務」について、共同処理を開始することで各町村役場の事務負担軽減を図る。	
	目標に対する実施結果	給与処理業務である給与計算、賞与計算及び共済組合対応等の共同処理が滞りなく完了している。令和7年1月現在、年末調整業務も円滑な共同処理が進んでいる。	
	達成度評価結果（自己評価）	80 %	（理由） 給与計算、賞与計算、共済組合対応及び年末調整等の給与処理業務を支障なく遂行し、町村役場の負担軽減の一助となっている。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	引き続き給与処理業務の共同処理を安定的に継続するとともに、令和6年度に詳細検討を行った「課税業務」、「介護保険業務」及び「国民健康保険業務」の共同処理を開始することで、各町村役場の事務負担軽減を図る。	

多摩川流域連携会議

構成市町村等：調布市、八王子市、府中市、町田市、日野市、狛江市、多摩市、稲城市

広域連携による多摩川流域自治体の魅力発信事業

<p>目的</p>	<p>地域に人・企業を呼び込むため、個別自治体の施策だけでなく、広域連携による自治体間連携を促進し、スケールメリットを生かした情報発信を通じた地域振興・産業振興に取り組み、まちの活力向上・QOL向上を目指す。</p>	
<p>主な内容</p>	<p>1 自治体基礎情報の整理 特に事業者に向けて、自治体の魅力やポテンシャルを感じていただけるよう、オープンデータや各市調査結果等を基に自治体基礎情報を整理するフォーマットを作成した。併せて、継続的に更新が行えるよう更新作業のマニュアルを整備した。</p> <p>2 自治体の魅力発信パンフレットの作成 自治体基礎情報を基に、8市全体を主語とした魅力が伝わるようなパンフレット（A3見開き一面）を作成した。併せて、同フォーマットを活用し、8市それぞれのパンフレット（A3見開き一面）も作成した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="316 728 861 1097"> <p>パンフレットイメージ（8市全体）</p> </div> <div data-bbox="885 728 1444 1097"> <p>パンフレットイメージ【調布市】</p> </div> </div>	
<p>事業期間</p>	<p>令和4年度～令和6年度（3年目）</p>	
<p>実施日・期間</p>	<p>令和6年4月1日～令和7年3月31日</p>	
<p>実施場所</p>	<p>-</p>	
<p>参加者数</p>	<p>-</p>	
<p>事業評価</p>	<p>令和6年度事業目標</p>	<p>多摩地域の魅力を発信するためのパンフレットを9種作成する。</p>
<p>目標に対する実施結果</p>	<p>各市協力のもと、パンフレット全9種を作成できた。</p>	
<p>達成度評価結果（自己評価）</p>	<p>100 %</p>	<p>(理由) ・想定していたパンフレットを作成することができた。</p>
<p>令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを各市ホームページ等に掲載し周知を図る。 ・パンフレットのさらなる有効活用について検討する。 ・多摩地域投資誘致プラットフォーム「インビテーション to TAMA」との連携を図る。 	

多摩地域セクシュアル・マイノリティ支援ネットワーク

構成市町村等：国分寺市、日野市、国立市、府中市、清瀬市、武蔵村山市、多摩市、小金井市、東村山市、小平市、町田市

若年層セクシュアル・マイノリティ支援事業

目的	セクシュアル・マイノリティのうち特に若年層の当事者は、学校生活等の中で自分と同じ当事者を見つけることができずに孤独感を抱えたり、ロールモデルが分からずに悩みを抱えたりすることが多い。若年層当事者に対しては、同年代の当事者と安心して交流できる場の提供や、周囲からの理解・支援が必要である。本事業により、各市が連携して若年層当事者が抱える課題の研究・解決に取り組み、支援の枠組を構築していく。	
主な内容	<p>1 当事者団体に委託し、若年層当事者（23歳以下）の居場所（交流の場）を毎月1回程度開催。居場所では参加者が互いにテーマトークをしたり、ボードゲームをしたりして過ごす。スタッフに個別相談することも可能。</p> <p>2 多様な性に関する授業や教員研修を講師派遣により実施（授業・研修後に生徒/教員の個別相談も可能）。 ※学校・イベント等での周知により、当事者生徒を居場所へつなげる。</p> <p>※1及び2ともにアンケート等でフィードバックを受け、実施内容の改善につなげる。</p>	
事業期間	令和4年度～令和6年度（3年目）	
実施日・期間	令和6年4月～令和7年3月	
実施場所	連携市内の公共施設、学校等	
参加者数	約4,102人（居場所：約90人、授業・研修：約2,262人、東京レインボープライド1,750人） （令和7年1月までの推計）	
事業評価	令和6年度事業目標	<p>1 延べ12回程度の居場所事業開催を行う。新規参加者の参加率向上に向けた広報を行う。また、参加者の満足度90%以上を目指し、一定数の継続利用者となるよう促す。</p> <p>2 若年層セクシュアル・マイノリティ支援に関する意識醸成のため、授業、教員等研修、講座を連携市各1回以上開催するほか、東京レインボープライドなどの影響力の大きいイベント等に参画し、情報発信につとめる。R4～5の開催実績を分析・研究し、R7以降の事業実施計画を組み立てる。</p>
	目標に対する実施結果	<p>1 居場所事業を12回開催し、約90人の参加があった（満足度90%以上）。令和6年度から、開催地を3市に絞り、継続利用を促進した。</p> <p>2 授業・職員研修を計28回開催（2,262名、前年比4倍）。令和6年4月19日～21日に開催された東京レインボープライド（TRP）にブースを出展し、事業周知を図った（ブース来場者1,750人）。</p>
	達成度評価結果（自己評価）	<p>80%</p> <p>（理由） 居場所事業「にじーず多摩」の参加者数は合計約90名（前年度比：140名）と前年度より減少したが、研修・講座等については合計28回実施、参加者約2,262名（前年度：12回、560名）となり、前年度より4倍の参加者の学習機会を提供できた。また、TRPへの出展により、多数の市内外の方々に向け自治体の支援事業を発信でき、自治体連携のアピールに取り組んだ。</p>

	<p>令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか</p>	<p>本事業は①居場所と②授業・教員研修の相乗効果により、若年層当事者の抱える課題を解決するものである。①の居場所については、事業が浸透し、継続利用者は全体の8割に上る。また新規利用者も2割程度おり、居場所としての機能を確立しつつある。</p> <p>教育啓発事業については、複数年度に渡って実施している団体もあり、本事業を活用することで自治体独自の養護教諭の学習会を開催した自治体もあった。令和7年度以降は、連携組織としての予算は持たないものの、連携市同士の情報共有ネットワークを強化しつつ、過去3年間の事業実施により蓄積された経験・知識等をもとに、各自治体がより地域特性に即した事業実施を行っていく。</p>
--	---	--

産学官民 CO-CREATION

構成市町村等：八王子市、日野市、多摩大学総合研究所、株式会社ディーランド

産学官民連携によるイノベーション創出モデル事業

目的	<p>多摩地域においては、人口減少・超高齢化が急速に進んでおり、今後生産年齢人口の減少とともに働き手不足による医療・介護問題、公共交通ネットワークの縮小、消費市場の規模縮小による地域経済の疲弊、さらには気候変動とともに深刻化する災害対応など、社会課題・地域課題は多様化・複雑化している。これらの課題に対応していくためには、従来のような行政中心の取組だけでは、限界が見られるようになっており、多様な主体との「共創」により、それぞれの持つ技術・知見を結集していく必要がある。そこで、本事業では、自治体間連携により、企業等との共創プラットフォームを形成し、多摩地域においてイノベーション・エコシステムの構築につなげることを目的とする。</p>	
主な内容	<p>1 多摩地域大企業実態調査（実施日：令和6年4月16日～令和6年9月9日実施 実施場所：多摩地域の各企業計8社を訪問 対象者：事務局他産業振興自治体職員）</p> <p>2 対話の場づくりから具体的なアイデア創出につなげる（イベント等の開催）</p> <p>(1) TAMA-SIL サロン第5回（令和6年7月22日実施） 実施場所：住友金属鉱山株式会社 青梅事業所 対象者：地域共創に関心のある方 参加人数：46名</p> <p>(2) TAMA-SIL サロン第6回（令和6年12月23日実施） 実施場所：日野自動車 本社 対象者：地域共創に関心のある方 参加人数：38名</p> <p>(3) TAMA-SIL サロン第7回（令和7年1月27日実施） 実施場所：高尾駅周辺 対象者：地域共創に関心のある方 参加人数：51名</p> <p>(4) TAMA-SIL サロン特別編（令和7年3月21日実施） 実施場所：日立製作所中央研究所 協創の森 対象者：地域共創に関心のある方 参加人数：38名</p> <p>3 社会課題とアイデアのディスカッションによる取組の創出</p> <p>(1) クローズドミーティング（令和6年10月28日実施） 実施場所：日野市多摩平の森産業連携センター PlanT 対象者：地域共創により関心がある特定事業者 参加人数：15名（製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、自治体）</p> <p>(2) クローズドミーティング（令和6年12月9日実施） 実施場所：まちの駅八王子 CHITOSEYA 対象者：地域共創により関心がある特定事業者 参加人数：17名（製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、自治体）、地域共創をテーマとしたプレゼンテーション数：7社</p> <p>(3) クローズドミーティング（令和7年2月10日実施） 実施場所：日野市多摩平の森産業連携センター PlanT 対象者：地域共創により関心がある特定事業者 参加人数：16名（製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、自治体）</p>	
事業期間	令和4年度～令和6年度（3年目）	
実施日・期間	令和6年6月～令和7年3月	
実施場所	東京たま未来メッセをはじめとした多摩地域全域	
参加者数	イベント参加者累計：221名	
事業評価	令和6年度事業目標	<p>令和6年度は、これまでの2年間の取組をとりまとめ、共創に向けた対話の場における地域課題主導型共創の実現に資する事例の創出を目指す。また、引き続き前年度の取組を継続し、テーマ別の課題共有、フィールドスタディ、ワークショップを実施していく。さらに、共創事例の評価手法を検討する。</p>
	目標に対する実施結果	<p>地域共創に関心がある多摩地域の企業や自治体に対し、企業訪問及びインタビューを実施した。また、行政と企業の社会課題・地域課題解決のための共創事例共有や共創の実践に向けた対話の場を複数回実施し、共創によるイノベーション創出を図った。</p>

	<p>達成度 評価結果 (自己評価)</p>	<p>80 %</p>	<p>(理由) 新たに8社に対し訪問及びインタビューを実施することで、地域共創の可能性を高めることができた。 また、企業等と自治体との間で社会課題・地域課題に関する対話を深め、課題解決に向け、より実践に向けた議論を複数回実施することができた。具体的には、自治体が把握する社会・地域課題を提案し、その解決に資する企業からのソリューション提案に基づき議論を行った。企業それぞれの強みを出し合い、公民双方による役割分担の明確化を図りながら、課題解決に資する事業構築を進めることができた。PoC・事業実施にまで至っていないため、引き続き、検討を重ねていく。</p>
	<p>令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか</p>	<p>これまで3か年にわたって多摩地域における共創プラットフォーム形成に向け、共創事例の共有や実践に向けた対話等の実践を重ねてきた。今年度は、企業間、自治体間の枠組みを超え、社会課題・地域課題解決に向けた実践へより具体的な議論を展開することができた。今後、対話を継続し、3PM 関係を意識した評価手法を検討しながら、PoC・事業実施へと展開していく。</p>	

多摩マッチングプロジェクト実行委員会

構成市町村等：狛江市、府中市、国立市、稲城市

多摩マッチングプロジェクト～多摩にはステキな未来がある～

<p>目 的</p>	<p>多摩地域の自治体である府中市、国立市、狛江市及び稲城市の各市が連携を図り、各市の魅力発信を推進しながら人と人との出会いに関するイベントを実施することで、人と人との豊かな関わりを作るきっかけを提供するとともに、各市に対する愛着を深め、移住定住を促進し、人口減少対策及び地域の活性化を図る。</p>
<p>主な内容</p>	<p>【目的】 多摩地域の自治体である府中市、国立市、狛江市及び稲城市の各市が連携を図り、各市の魅力発信を推進しながら人と人との出会いに関するイベントを実施することで、人と人との豊かな関わりを作るきっかけを提供するとともに、各市に対する愛着を深め、移住定住を促進し、人口減少対策及び地域の活性化を図る。</p> <p>【内容】 1 ホームページ運用保守…初年度作成した本事業の専用ホームページにおいて、イベントの申込みのほか、地域の魅力発信に関する情報発信を行った。 2 マッチングイベント…構成市にてマッチングイベントを実施。マッチングに向けた参加者全員との個別トークを実施したほか、構成市の魅力発信につながる体験要素を盛り込んだ。</p> <p>≪ 1回目（狛江市実施） ≫ 実施日時：令和6年10月5日（土曜日） 午後1時20分～午後4時50分 実施場所：泉の森会館3Fホール（狛江市内多目的ホール） 対 象 者：30～49歳までの独身の男女 参加人数：男性15名、女性15名（定員各15名） マッチング数：14組</p> <p>≪ 2回目（国立市実施） ≫ 実施日時：令和6年12月1日（日曜日） 午前11時20分～午後2時00分 実施場所：麦酒堂かすがい（国立市内レストラン） 対 象 者：30～49歳までの独身の男女 参加人数：男性12名、女性12名（定員各12名） マッチング数：9組</p> <p>≪ 3回目（稲城市実施） ≫ 実施日時：令和6年12月8日（日曜日） 午後3時00分～午後5時40分 実施場所：よみうりランドBBQパーク JU-JU（稲城市内遊園地） 対 象 者：30～49歳までの独身の男女 参加人数：男性15名、女性14名（定員各15名） マッチング数：11組</p> <p>≪ 4回目（府中市実施） ≫ 実施日時：令和7年1月19日（日曜日） 午前11時00分～午後2時50分 実施場所：府中市市民活動センタープラッツ 料理室 対 象 者：30～50歳までの独身の男女 参加人数：男性12名、女性12名（定員各12名） マッチング数：8組</p> <p>≪ 5回目（合同イベント実施） ≫ 実施日時：令和7年2月9日（日曜日） 午後1時00分～午後4時30分 実施場所：ホテルコンチネンタル府中（府中市内ホテル） 対 象 者：30～50歳までの独身の男女 参加人数：男性20名、女性19名（定員各20名） マッチング数：15組</p>
<p>事業期間</p>	<p>令和4年度から令和6年度（3年目）</p>
<p>実 施 日 ・ 期 間</p>	<p>令和6年4月1日～令和7年3月31日</p>



実施場所	主な内容のとおり		
参加者数	147人（見込）		
事業評価	令和6年度事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩マッチングプロジェクト事業の延参加人数：100名 ・マッチング件数 12組 ・構成市への移住希望者各1名 	
	目標に対する実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩マッチングプロジェクト事業の延参加人数（見込）：147名 ・マッチング件数：42件（令和7年1月24日時点） ・構成市への移住希望者：23名 （狛江市4名、稲城市8名、国立市8名、府中市3名） 	
	達成度評価結果（自己評価）	100 %	（理由） 目標（参加目標 100名等）を超える数値（延参加者数 147名等）を達成したため。
	令和6年度事業評価結果を令和7年度事業内容にどう反映させるか	従来の食事形式によるマッチングイベントに加え、構成市の魅力発信につながる体験要素を盛り込みイベントを実施し、参加者の年齢幅を広く設定した。プロジェクトのコンセプトである「体験」と参加者の年齢、属性を考慮したうえでイベントを実施したところ、前年度と比較し、参加者とともにマッチング件数も増加した。 3年間の事業実施により事業目標を達成できたため、事業自体は令和6年度をもって終了する。	

生きづらさを抱えた女性支援ネットワーク

構成市町村等：武蔵野市、日野市、国立市、東大和市、清瀬市、文京区、豊島区

生きづらさをかかえた女性支援事業 「ひきこもり女子会・ママ会」

目的	生きづらさをかかえ、人との関係に難しさ感じ、ひきこもりがちな女性たちを対象に、お互いの困難を聞きあい、話し合う中で力を得ていく場を作ることで、エンパワメントにつなげる。																																						
主な内容	<p>① ひきこもり UX 女子会、同日開催 支援者・家族・男性当事者のつながる待合室（人数）※</p> <table border="1"> <tr><td>5月24日（金）</td><td>国立市</td><td>50名（10名）</td></tr> <tr><td>6月20日（木）</td><td>日野市</td><td>50名（30名）</td></tr> <tr><td>7月27日（土）</td><td>武蔵野市</td><td>47名（30名）</td></tr> <tr><td>8月22日（木）</td><td>文京区</td><td>42名（25名）</td></tr> <tr><td>9月10日（火）</td><td>豊島区</td><td>45名（8名）</td></tr> <tr><td>11月7日（木）</td><td>清瀬市</td><td>28名（9名）</td></tr> <tr><td>12月1日（日）</td><td>日野市</td><td>25名（13名）</td></tr> <tr><td>2月2日（日）</td><td>東大和市</td><td>17名（6名）</td></tr> </table> <p>② ひきこもり UX ママ会</p> <table border="1"> <tr><td>7月9日（火）</td><td>清瀬市</td><td>3名</td></tr> <tr><td>9月4日（水）</td><td>国立市</td><td>6名</td></tr> <tr><td>10月18日（金）</td><td>文京区</td><td>8名</td></tr> <tr><td>1月21日（火）</td><td>豊島区</td><td>6名</td></tr> </table> <p>③ネットワーク会議の運営 ④事業報告書の作成</p>			5月24日（金）	国立市	50名（10名）	6月20日（木）	日野市	50名（30名）	7月27日（土）	武蔵野市	47名（30名）	8月22日（木）	文京区	42名（25名）	9月10日（火）	豊島区	45名（8名）	11月7日（木）	清瀬市	28名（9名）	12月1日（日）	日野市	25名（13名）	2月2日（日）	東大和市	17名（6名）	7月9日（火）	清瀬市	3名	9月4日（水）	国立市	6名	10月18日（金）	文京区	8名	1月21日（火）	豊島区	6名
5月24日（金）	国立市	50名（10名）																																					
6月20日（木）	日野市	50名（30名）																																					
7月27日（土）	武蔵野市	47名（30名）																																					
8月22日（木）	文京区	42名（25名）																																					
9月10日（火）	豊島区	45名（8名）																																					
11月7日（木）	清瀬市	28名（9名）																																					
12月1日（日）	日野市	25名（13名）																																					
2月2日（日）	東大和市	17名（6名）																																					
7月9日（火）	清瀬市	3名																																					
9月4日（水）	国立市	6名																																					
10月18日（金）	文京区	8名																																					
1月21日（火）	豊島区	6名																																					
事業期間	令和2年度から令和6年度（5年目）																																						
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日																																						
実施場所	国立市、清瀬市、武蔵野市、東大和市、日野市、文京区、豊島区																																						
参加者数	延べ458名																																						
事業評価	令和6年度事業目標	1 参加者数 女子会40名×8、ママ会20名×8 待合室10人×8 =560名 2 参加者の満足度 平均80%以上																																					
	目標に対する実施結果	1 参加者 女子会/つながる待合室、ママ会 458名（81.8%達成） 2 満足度 参加者アンケート 満足度 平均88.9%																																					
	達成度評価結果（自己評価）	90 %	<p>（理由）</p> <p>今年度は、令和2年度の事業開始以来、女子会及びつながる待合室の実施回数が最も多い年度となった。夏に開催した回が昨年より参加者が減り、酷暑の影響も大きかったことが推察されたが、参加者のアンケートからは、「広い会場でゆったりと話ができて良かった」「心配だったが参加できてよかった」等の声を聞くことができた。実施場所が毎年増え、都内のさまざまな場所ではほぼ毎月開催できたことで、体調等の理由で参加が難しい場合でも翌月の女子会に参加できるため、無理のない参加の仕方を選択できるようになった。広域連携で開催することで、JR線、西武線、京王線の3路線沿線の会場を用意でき、参加しやすい会場の選択肢を増やすことができたため、新規参加者の数を増やすことができた。複数回参加の方が多いたときは会場設営を手伝ってくれるなど、いっしょに場を作ることを楽しむような雰囲気の回もあり、満足できる会（居場所）につながっていると考えられる。</p>																																				



	<p>令和6年度事業 評価結果を 令和7年度 事業内容に どう反映させるか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは事業実施時期について上半期から開催してほしい、平日・土日のどちらも開催してほしいという声が続きあり、令和7年度もできるだけ開催時期を早め、実施曜日も平日、土日どちらも開催するように取り組む。 ・令和7年度に参入予定の自治体があり、さらに開催地、回数を増やし、参加者が参加しやすい環境をつくっていく。
--	---	--

資料編

資料1 多摩・島しょ広域連携活動助成金交付要綱

(総則)

第1条 この要綱は、東京都市長会（以下「市長会」という。）及び東京都町村会（以下「町村会」という。）が多摩・島しょ地域の市町村に対して、多摩・島しょ広域連携活動助成金（以下「助成金」という。）を交付することに関して、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 助成金は、多摩・島しょ地域の市町村が立ち上げる新たな連携活動の支援、既存の連携活動の活性化、並びに市町村職員の交流及び人材育成、ひいては多摩・島しょ地域の魅力を高めることを目的とする。

(事務の委任)

第3条 町村会は、本要綱に係る事務の執行については、市長会に委任する。

(助成対象者)

第4条 助成対象者は、連携活動を目的とし、二以上の多摩・島しょ地域の市町村で組織する協議会、研究会、連絡会等（以下「連携組織」という。）とする。

2 連携組織には、企業、学校、NPO等の団体及び多摩・島しょ地域以外の市区町村も参加できるものとする。

3 助成金の申請者は、連携組織を構成する多摩・島しょ地域の市町村長の代表とする。

(助成対象事業等)

第5条 助成対象事業は、連携組織内の多摩・島しょ地域の市町村自らが企画・立案し、独自性が表れたもの、かつ連携組織が主体的に実施する多摩・島しょの魅力を高めるもので、市長会会長（以下「会長」という。）が必要と認める事業とする。

2 助成対象事業は、別表1のとおり区分する。

3 助成金の交付を受けようとする同一市町村で構成される連携組織は、毎年度、前項で規定した区分ごとに、1件に限り助成金を申請することができる。ただし、多摩・島しょ地域の全市町村、多摩地域の全市町村、多摩地域の全市、多摩地域の全町村、東京都の全町村及び島しょ地域の全町村で構成された連携組織は除く。

4 前項に定める申請のうち第2項に定める区分中、観光振興連携活動の区分に該当する事業の申請については、別に定める事業選定委員会の審査を受け、選定されたものに限る。

(助成年限)

第6条 第4条に規定する連携組織に対する助成は、前条第2項に規定する観光振興連携活動及び一般連携活動においては5年を限度とする。

(助成対象経費及び助成金の額)

第7条 助成対象経費、助成金の額及びその上限は、一連携組織につき別表2のとおりとする。

(交付申請)

第8条 助成金の交付を受けようとする申請者は、次に掲げる書類を、毎年度、別に定める日までに会長に提出しなければならない。

- (1) 多摩・島しょ広域連携活動助成金交付申請書(様式1)
- (2) 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画書総括表(様式2)
- (3) 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画書(様式3の1、様式3の2、様式3の3)
- (4) 多摩・島しょ広域連携活動助成金事業歳入歳出予算見積書抄本(様式3の4)
- (5) 連携組織の規約等
- (6) その他会長が必要と認める書類

2 第5条第2項に定める区分のうち、観光振興連携活動及び一般連携活動について助成金の交付を受けようとする申請者は、概ね5年程度で一定の成果を見込める事業計画を立案し、毎年度、多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画書(様式3の3)を提出しなければならない。

(交付決定及び通知)

第9条 会長は、前条の規定による交付申請があったときは、別に定める市町村共同事業助成金審査会の審査に付したうえで、助成金交付の可否を決定する。

2 会長は、前項の規定による決定をしたときは、速やかに申請者に対し、多摩・島しょ広域連携活動助成金交付・不交付決定通知書(様式4)により通知する。

(助成事業の遂行)

第10条 前条第2項の規定により交付の決定を受けた申請者は、第8条の規定により提出した事業計画(以下「事業計画」という。)に従い、連携組織を構成する市町村等の職員が連携し、協力して事業を適正に遂行しなければならない。なお、事業計画の主要部分についての変更及び連携組織を構成する一部の団体のみによる事業の遂行は、認めないものとする。

(助成事業の変更)

第11条 第9条第2項の規定により交付の決定を受けた申請者は、通知された助成金交付決定総額の範囲内で主要部分以外の事業内容に変更(各事業において交付決定額の30%以内の額の変更を除く。)の必要が生じたときは、多摩・島しょ広域連携活動助成金変更交付申請書(様式5)に多摩・島しょ広域連携活動助成金事業変更計画書総括表(様式6)、多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画書(様式3の1、様式3の2、様式3の3)及びその他会長が必要と認める書類を添付し、会長に提出し

なければならない。

- 2 会長は、前項の規定による変更交付申請があったときは、その内容を審査し、変更交付の可否を決定する。
- 3 会長は、前項の規定による決定をしたときは、速やかに変更交付申請者に対し、多摩・島しょ広域連携活動助成金変更交付・不交付決定通知書（様式7）により通知する。
- 4 前項の規定により変更交付の決定を受けた申請者は、第1項の規定により提出した変更後の事業計画に従い、事業を適正に遂行しなければならない。

（申請の取下げ）

第12条 第9条第1項の規定による交付決定又は前条第2項の規定による変更交付決定を受けた申請者（以下「被交付決定者」という。）は、助成金の申請を取り下げるときは、多摩・島しょ広域連携活動助成金取下申請書（様式8）を会長に提出し、その承認を受けなければならない。

- 2 会長は、前項の規定による申請を受理したときは、速やかに被交付決定者に対し、多摩・島しょ広域連携活動助成金取下承認通知書（様式9）により通知する。

（軽微な変更の届出）

第13条 第11条第1項の規定にかかわらず、被交付決定者は、事業名称の一部修正など、軽微な変更の必要が生じたときは、速やかに書面により会長に届け出なければならない。

（実績報告）

第14条 被交付決定者は、多摩・島しょ広域連携活動助成金実績報告書（様式10）に多摩・島しょ広域連携活動助成金事業実績調書総括表（様式11）、多摩・島しょ広域連携活動助成金事業実績調書（様式12の1、様式12の2）、領収書等助成対象経費の支出を証明する書類の写し及びその他会長が必要と認める書類を添付し、別に定める日までに会長に提出しなければならない。

（助成金の額の確定）

第15条 会長は、前条の規定による報告を受けたときは、その内容の審査を行い、助成金の額を確定し、多摩・島しょ広域連携活動助成金確定通知書（様式13）により被交付決定者に通知する。

（助成金の請求及び交付）

第16条 被交付決定者は、前条第1項の規定により助成金の額が確定した後に、多摩・島しょ広域連携活動助成金請求書（様式14）（以下「助成金請求書」という。）を別に定める日までに会長に提出しなければならない。

- 2 助成金の交付は、連携組織を構成する多摩・島しょ地域の代表市町村とする。
- 3 会長は、第1項の助成金請求書が提出されたときは、速やかに助成金を交付する。

(助成金の管理執行)

第17条 助成金の交付を受けた被交付決定者は、当該市町村の事務に基づいて、適正に助成金を管理執行しなければならない。

(交付決定の取り消し)

第18条 会長は、被交付決定者が次の各号の一に該当した場合は、助成金の交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

- (1) 虚偽その他不正な手段により助成金の交付決定を受けたとき
- (2) 事業の実施に際して、法令に違反したとき
- (3) 本要綱又は交付決定に付した条件に違反したとき

2 前項の規定は、交付すべき助成金の額の確定があった後においても適用する。

3 助成金の交付を受けた被交付決定者は、助成金の交付決定が取り消された場合は、当該取り消しに係る部分の助成金を速やかに会長に返還しなければならない。

(事務の所管)

第19条 この要綱に基づく事務は、市長会事務局企画政策室が所管する。

(事業への協力)

第20条 町村会及び公益財団法人東京市町村自治調査会は、市長会から事務の執行に際し、協力の依頼が有った場合は、協力するものとする。

(補則)

第21条 この要綱に定めるもののほか、助成金の交付について必要な事項は、会長が別に定める。

附 則 (略)

附 則

この要綱は、令和4年8月29日から施行する。

別表1（第5条第2項関係）

区 分	内 容
子ども体験塾	第5条第1項に規定する事業であって、子ども（18歳以下）を対象とした高度で大規模な感動体験を提供する事業
観光振興連携活動	第5条第1項に規定する事業であって、上記を除く事業のうち、観光振興に資する事業
一般連携活動	第5条第1項に規定する事業のうち、上記2区分に該当する事業を除く事業

別表2（第7条第1項関係）

区 分	連携組織の規模	助成対象経費	助成金の額	助成上限額
子ども体験塾	市町村の数が8以上 又は市町村の人口の 合計が60万人以上	助成対象事業に要する経費（施設整備等に係る経費、備品購入に係る経費及び連携組織の構成団体の職員人件費を除く。）	下記のうち、いずれか少ない額 ①助成対象経費の8/10	年間 1,200万円
	市町村の数が5以上8未満 又は市町村の人口の合計が30万人以上 60万人未満	から、当該事業の実施に係る国、東京都及びその他団体等からの助成金等を控除して得た経費	②当該事業の実施に伴う支出額から収入額を控除して得た額	年間 800万円
	上記以外			年間 500万円

観光振興連携活動	一律	<p>助成対象事業に要する経費（施設整備等に係る経費、備品購入に係る経費及び連携組織の構成団体の職員人件費を除く。）から、当該事業の実施に伴う収入額を控除して得た経費。</p> <p>ただし、備品購入費について、会長が必要と認めたものについてはこの限りではない。</p>	<p>助成対象経費の 10 / 10</p>	<p>500万円 ×事業計画 年数（最長 5年）</p> <p>ただし、各 年度毎に申 請できる金 額は、年間 1,000 万円までと する。</p>
一般連携活動	一律	<p>助成対象事業に要する経費（施設整備等に係る経費、備品購入に係る経費及び連携組織の構成団体の職員人件費を除く。）から、当該事業の実施に伴う収入額を控除して得た経費</p>	<p>①交付開始後、 3年間 助成対象経費の 10 / 10</p> <p>②交付開始後、 4年目から5年 目 助成対象経費の 1 / 2</p>	<p>①年間 500万円 ②年間 250万円</p>

(注1) 市町村の数：連携組織を構成する多摩・島しょ地域の市町村の数とする。

(注2) 人口：申請年度前年の9月1日現在の住民基本台帳による人口とする。

資料2 市町村共同事業助成事業選定委員会設置及び運営要綱

(設置)

第1条 東京都市長会（以下「市長会」という。）及び東京都町村会（以下「町村会」という。）は、市長会及び町村会が多摩・島しょ地域の魅力を高めるために実施する助成金の交付申請にあたり、市町村共同事業審査会（以下「審査会」という。）の審査に付すべき事業を選定するため、市町村共同事業助成事業選定委員会（以下「事業選定委員会」という。）を設置する。

(事務の委任)

第2条 町村会は、本要綱に係る事務の執行について、市長会に委任する。

(所掌事務)

第3条 事業選定委員会は、市長会会長の求めに応じて対象事業の内容を審査し、審査会に付すべき事業を選定する。また、選定結果について、市長会会長に報告する。

(組織)

第4条 事業選定委員会は、次に掲げる6名の委員をもって組織する。

- (1) 有識者 2名
- (2) 市長会事務局長
- (3) 市長会事務局次長
- (4) 町村会事務局長
- (5) 町村会事務局次長

2 委員は、市長会会長が委嘱する。

3 委員の任期は、委嘱の日から2年とし、再任を妨げない。

4 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(事業選定委員会の会長等)

第5条 事業選定委員会に、会長及び副会長を置く。

2 会長は、前条第1項第2号に掲げる委員をもって充てる。

3 副会長は、前条第1項第4号に掲げる委員をもって充てる。

4 会長は事業選定委員会を代表し、会務を総括する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会長は、必要に応じて事業選定委員会を招集する。

2 事業選定委員会は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

3 事業選定委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、適否同数のときは、会長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、事業選定委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(委員報酬等)

第7条 第4条第1項第1号に規定する委員については、東京都市長会附属協議会に対する補助金交付要綱(平成11年4月1日施行)第3条第3号の基準に準じて報酬等を支給する。

(庶務)

第8条 事業選定委員会の庶務は、市長会事務局企画政策室において処理する。

(事業への協力)

第9条 町村会は、市長会から事務の執行に際し協力の依頼があった場合は、協力するものとする。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、事業選定委員会に関し必要な事項は、市長会会長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成29年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年10月1日から施行する。

資料3 市町村共同事業助成事業選定委員会 委員名簿

(敬称略)

選出区分	氏 名	所属・役職
有識者 (要綱第4条第1項第1号)	おおしも しげる 大下 茂	帝京大学 経済学部観光経営学科教授
	さわのぼり つぐひこ 沢 登 次彦	じゃらんリサーチセンター センター長
市長会事務局長 (同項第2号)	こぐれ みのる 小暮 実	東京都市長会 事務局長
市長会事務局次長 (同項第3号)	あべ ようこ 安部 陽子	東京都市長会 事務局次長
町村会事務局長 (同項第4号)	やまき つよし 山巻 毅	東京都町村会 事務局長
町村会事務局次長 (同項第5号)	うちだ みねお 内田 峰夫	東京都町村会 事務局次長

選定委員会実施日（令和5年12月4日）現在

資料4 市町村共同事業助成金審査会設置及び運営要綱

(設置)

第1条 東京都市長会（以下「市長会」という。）及び東京都町村会（以下「町村会」という。）は、市長会及び町村会が多摩・島しょ地域の魅力を高めるために実施する助成金の交付にあたり、その適否を審査させるため、市町村共同事業助成金審査会（以下「審査会」という。）を設置する。

(事務の委任)

第2条 町村会は、本要綱に係る事務の執行について、市長会に委任する。

(所掌事務)

第3条 審査会は、市長会会長の求めに応じて対象事業の内容を審査し、助成金申請者に対し必要に応じて事業実施に係る助言を行うとともに、市長会会長に助成金交付の適否について報告する。

(組織)

第4条 審査会は、市長会会長を除く次に掲げる6名の委員をもって組織する。

- (1) 市長会の代表 1名
- (2) 町村会の代表 1名
- (3) 学識経験者 2名
- (4) 市長会事務局長
- (5) 町村会事務局長

2 委員は、市長会会長が委嘱する。

3 委員の任期は、委嘱の日から2年とし、再任を妨げない。

4 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審査会の会長等)

第5条 審査会に、会長及び副会長を置く。

2 会長は、前条第1項第1号に掲げる委員をもって充てる。

3 副会長は、前条第1項第2号に掲げる委員をもって充てる。

4 会長は審査会を代表し、会務を総括する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会長は、必要に応じて審査会を招集する。

2 審査会は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

3 審査会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、適否同数のときは、会長の決す

るところによる。

- 4 会長は、必要があると認めるときは、審査会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(委員報酬等)

第7条 第4条第1項第3号に規定する委員については、東京都市長会附属協議会に対する補助金交付要綱(平成11年4月1日施行)第3条第3号の基準に準じて報酬等を支給する。

(庶務)

第8条 審査会の庶務は、市長会事務局企画政策室において処理する。

(事業への協力)

第9条 町村会及び公益財団法人東京市町村自治調査会(以下「調査会」という。)は、市長会から事務の執行に際し協力の依頼があった場合は、協力するものとする。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、審査会に関し必要な事項は、市長会会長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この要綱の施行の際に、調査会の市町村共同事業助成金審査会設置及び運営要綱(平成22年4月1日施行)第3条第2項の規定により、委員に委嘱されている者については、第4条第2項の規定に係らず、委員に委嘱したものとみなす。この場合の委員の任期は、第4条第3項の規定に係らず、平成28年4月30日までとする。

附 則

この要綱は、平成28年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年10月1日から施行する。

資料5 市町村共同事業助成金審査会 委員名簿

選出区分	氏 名	所属・役職
東京都市長会 (要綱第4条第1項第1号)	いざわ くに 井澤 邦夫	国分寺市長
東京都町村会 (同項第2号)	たむら みさこ 田村 みさ子	日の出町長
学識経験者 (同項第3号)	すみたに あきお 炭谷 晃男	大妻女子大学 社会情報学部教授
	ながしま つよし 長島 剛	多摩大学 経営情報学部教授
東京都市長会事務局長 (同項第4号)	こぐれ みのる 小暮 実	東京都市長会 事務局長
東京都町村会事務局長 (同項第5号)	やまき つよし 山巻 毅	東京都町村会 事務局長

令和6年度多摩・島しょ広域連携活動助成事業実施報告書

令和7年3月

発行 東京都市長会／東京都町村会

編集 東京都市長会

〒183-0052

東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内